福島県文化財調査報告書　第93集

伊達西部条里遺構Ⅴ

―森山条里(Ⅱ区)発掘調査報告―

1981年3月

福島県教育委員会

伊達西部条里遺構Ⅴ

—森山条里(Ⅱ区)発掘調査報告—

DATESEIBU — MORIYAMA (Ⅱ)

編　　集

福島県教育庁文化課

口　絵

森山・藤田付近の条里遺構　(1：8,000)

序

伊達郡及び福島市には条里遺構が存在し，幾多の風雪に耐えて古代から今日まで受け継がれて来ております。水田や畑地の区画に見るこの遺構は正に〝土地に刻まれた歴史〟といえましょう。

さて，昭和50年度以降，伊達郡3町（国見，桑折，梁川）を中心とする阿武隈川西岸地帯において県営ほ場整備事業（伊達西部地区）が施行されたため，この歴史的景観が失われることになり，県教育委員会は事前に発掘調査を実施し地下遺構の存否を確認して参りました。

本年度は，最終年次（第6年次）に当り，国見町森山地区を対象として発掘調査を行い条里（想定）区画線上に溝跡などを確認しております。

この成果をまとめたものが本冊子であり，これが学術研究，文化財保護そして地域文化の振興に何らかの形で資するところがあれば望外の喜びと存じます。

当発掘事業の最後に当り，何かと御協力下さった国見町教育委員会，福島農地事務所を始めとする多くの関係機関に対し心より感謝の意を表します。

昭和56年3月

福島県教育委員会教育長

辺　見　栄之助

例　　言

1．本書は，昭和55年度に実施した，県営ほ場整備事業伊達西部地区内に所在する伊達西部条里遺構発掘調査の報告書である。

2．このほ場整備事業の計画・施行に当っては，福島県福島農地事務所と福島県教育委員会（文化課）が埋蔵文化財保護のための協議を重ね，遺跡の現状保存に努めているが，止むを得ず失れるものについては，記録保存のための発掘調査（**調査主体者・福島県教育委員会**）を実施している。（文化財保護法第57条の３第一項及び第98条２第一項による）

3．本年度は，伊達西部条里遺構（森山地区）の発掘調査を実施したが，昭和54年度実施地区を森山Ⅰ区あるいは森山条里Ⅰ区（略記号ＤＫＪ森山）とし，今回のそれを森山Ⅱ区あるいは森山条里Ⅱ区（略記号ＤＫＪ森山Ⅱ）として区別する。

4．本調査は，国庫補助金を受けて実施した。

5．発掘調査は，福島県教育庁文化課が担当し国見町教育委員会の協力のもとに，下記２名と若干の補助員をもって組織したが，調査体制の詳細については後述の通りである。

発掘調査担当者　日下部善己　（福島県教育庁文化課　文化財主事）

調査員　寺島　文隆　（〔財〕福島県文化センター遺跡調査課 文化財主事）

6．調査期間は，昭和55年10月13日～11月６日（延18日間）までで，その面積は1,000㎡である。

7．発掘調査及び整理作業・報告書作成の諸段階において，以下の方々の御援助と御協力を賜わった。記して謝意を表します。

安田　初雄　（東北福祉大学特任教授）　　佐藤堅治郎　（福島市文化財保護審議委員）

菊池　利雄　（国見町文化財保護審議委員）

9．報告書の番号は，前年度のものをⅣと考え，本年度のものをⅤとする。

8．本書の執筆は事実報告を主眼として以下の様に分担し，編集は日下部善己が行った。

寺島文隆（第Ⅰ章・第Ⅲ章第２節1，2，5，8，9）　日下部善己（左記以外のものすべて）

9．本書作成の基準は以下の通りであるが，特記しないものについては通例による。

(1)　平面図中の方位は磁北を示す。

(2)　遺構図内に示す破線は，想定復元線であり，断面図に示す基準線の数値は海抜高度である。

(3)　遺物の計測値は，特に記載しない限りいずれも最大径をとっている。

10．本書掲載の挿図・写真図版等及びその他の資料は文化課にて保管しており，営利目的以外の活用（学術研究，文化財保護，教育及びそれらの普及・啓蒙など）は任意であるが出典等は明示されたい。

目　　次

序……福島県教育委員会教育長　辺見　栄之助
例　言
第Ⅰ章　遺跡と環境……1
第1節　位置と地形……1
第2節　歴史的環境……1
第Ⅱ章　調査経過……4
第1節　往時の調査……4
第2節　調査経過……9
第Ⅲ章　遺構と遺物……10
第1節　地表条里遺構……10
第2節　溝・その他……12
第3節　その他の遺物……18
第Ⅳ章　総　　括……22
第1節　遺構・遺物について……22
第2節　遺跡について……22
資　料　伊達西部地区土壌調査……24
参　考　森山条里……26

付　章　Ⅰ　矢ノ目遺跡出土の石製模造品(補)……27
付　章　Ⅱ　1.下入ノ内遺跡出土の須恵器片(補)……36
2.国見町石母田及び西大枝地区出土遺物……36
文　献　伊達西部地区遺跡関係文献・参考文献……38
調査要項……40
写真図版

挿　図　目　次

第１図　遺跡周辺の地形分類図……1
第２図　遺跡位置図……3
第３図　伊達西部条里遺構分布図……5～6
第４図　伊達西部条里遺構水利灌漑図……7
第５図　岩代国伊達郡森山村全図……10
第６図　森山地区（滝川以東）水利図……11
第７図　遺　構　図（1）……13
第８図　遺　構　図（2）……15
第９図　遺　構　図（3）……17
第10図　出土遺物……21
第11図　伊達西部地区土壌調査地点……24
第12図　伊達西部地区土壌調査柱状図……25
第13図　矢ノ目遺跡の石製模造品（1）……32
第14図　矢ノ目遺跡の石製模造品（2）……33
第15図　矢ノ目遺跡の石製模造品（3）……34
第16図　矢ノ目遺跡の石製模造品（4）……35
第17図　矢ノ目遺跡の石製模造品（5）……35
第18図　下入ノ内遺跡の須恵器片……36
第19図　石母田・西大枝地区の出土遺物……37
付　図　森山条里全体図・トレンチ配置図

表　目　次

第１表　周辺の遺跡一覧表……3
第２表　伊達西部地区内遺跡の発掘調査……4
第３表　伊達西部条里遺構調査の内容……8
第４表　出土遺物一覧表……18
第５表　矢ノ目遺跡・石製模造品一覧表……27

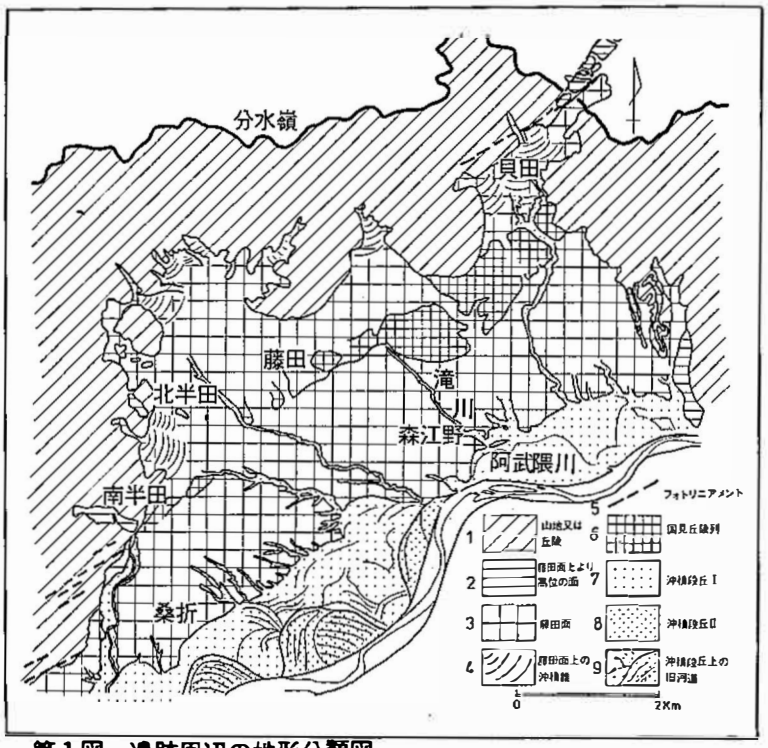
図　版　目　次

口　絵　森山・藤田付近の条里遺構
図版Ⅰ　1.Ｖ～Ｔ線上の堀
2.ｇ～ｉ線上の堀
3.森山条里遠望（厚樫山頂より）
4.ｒ～ｍ線上の道路
5.ｒ～ｔ線上の道路
図版Ⅱ　1.第16トレンチＣ区と交叉する堀
2.第24トレンチの東方の堀
3.Ｙ～Ｗ線上の道路
4.Ｙ～ａ線上の道路
5.イ～ロ線上の道路
図版Ⅲ　1.第12トレンチＡ区と交叉する堀
2.ｉ～ｊ線上の堀
3.第５トレンチＡ区の溝
4.同上・自然木出土状況
5.第８トレンチの溝
図版Ⅳ　1.第９トレンチＡ区の溝
2.第20トレンチＡ区全景
3.第18トレンチの溝
4.第18トレンチの溝断面
5.第20トレンチＢ区の溝断面
図版Ⅴ　1.第16トレンチＢ区発掘状況
2.ｂ～Ｚ線上の道路
3.第25トレンチの溝
4.第26トレンチの溝
5.第35トレンチ発掘状況
図版Ⅵ　1.本郷堰取水地点
2.下郷堰取水地点
3.西根上堰よりの取水地点
4.涌水湧水地点
5～22.出土遺物
図版Ⅶ　石母田付近の条里遺構
図版Ⅷ　高城・大木戸・西大枝・東大枝付近の条里遺構
図版Ⅸ　山崎・藤田付近の条里遺構
図版Ⅹ　藤田・塚野目付近の条里遺構
図版Ⅺ　徳江・塚野目付近の条里遺構
図版Ⅻ　北半田・谷地・六丁目付近の条里遺構

第Ⅰ章　遺跡と環境

第1節　位置と地形

今年度（昭和55年度）対象とした調査地区は今事業の最終地区の森山地区である。森山地区は東北本線藤田駅の東方約2㎞の地区一帯をほぼいう。丁度，県道藤田一五十沢線の字辻周辺である。この森山地区は北側に国見丘陵列をひかえ，東南方には阿武隈川を見る。そして，この国見丘陵から阿武隈川流域の沖積段丘に至る側は藤田面と呼ばれる扇状地である。この扇状地（藤田面）を西方から南東方に分断するように滝川が東南流し，これと平行するように東側を滑川が東南流している。滑川は滝川へ合流し，阿武隈川へと注ぐ。これらの河川の水量が示すごとく滝川がまさっており，これにより形成された谷も滑川より滝川の谷の方が幅も広く深いものである。この平坦な扇状地（藤田面）と滝川・滑川の二つの河川の水を利用して永く水田（耕地）として利用されているのである。また，これら対象地区の条里の区画線は字辻を中心とした周辺部にその形跡をとどめているが，東側に谷が見られこの区画線は大きくみだれている。これと同様のことは滝川周辺にも認められる。



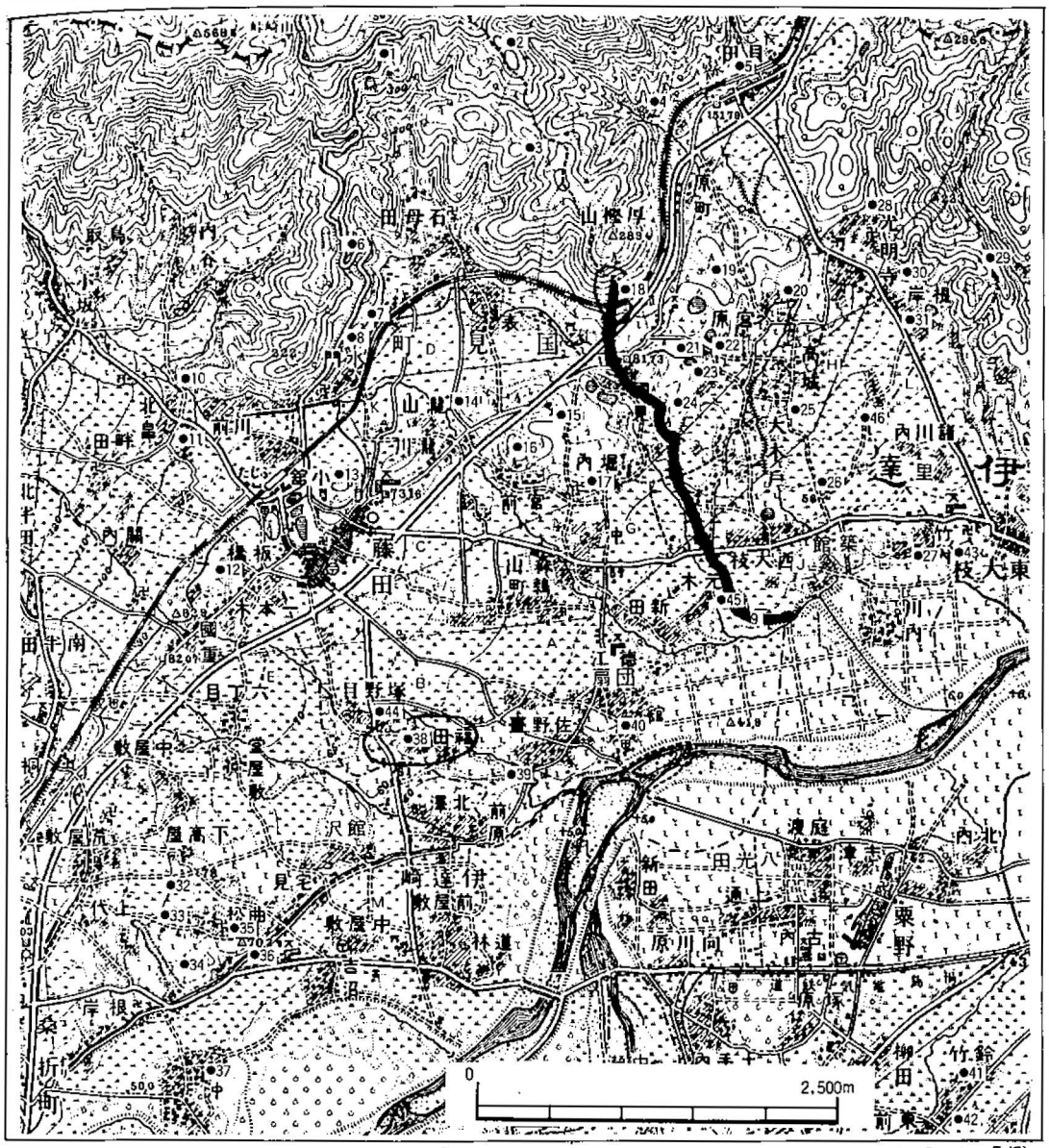
第1図　遺跡周辺の地形分類図

第2節　歴史的環境

国見町は，従来から多くの先学により紹介されているように，原始から近世に至るまで数多くの遺跡が知られている。縄文時代までの遺跡については前回までの調査報告に詳しいので今回は条里制遺構との関連を考慮して弥生時代の遺跡から概観してみたい。

弥生時代はいまさら述べるまでもなく稲作を基盤とした社会である。この時代の遺跡は現在知られているものでは石包丁を出土している光明寺の山田遺跡，志久遺跡，弥生土器と太形蛤刃石斧を出土している泉田の堰下遺跡，伊達西部地区の調査により明らかとなった徳江の仏供田遺跡などが著名である。その他アメリカ式石鏃や石鍬，管玉，太形蛤刃石斧を出土したところも認められている。これら弥生時代に培かわれた経済基盤をもととして貧富の差が生じ，これがやがて階級の分化となり古墳文化が出現する。当地方の古墳は，現在中期古墳（５世紀代）といわれ，主軸長約70mを測る塚野目八幡塚古墳を筆頭として後期古墳の錦墳古墳（主軸長約42cm），森山古墳群，大木戸古墳群などが知られる。横穴墓群では，他にも所在は知られるが現在明確となっているものとして涌水横穴墓群があげられるのみである。こうして見ると国見町では前期古墳がいまだに発見されていないが中期古墳以降連綿として古墳文化は続いていたことを物語っている。この時代の集落遺跡としては，塚野目の南寺田遺跡，森山の太田川遺跡などが知られている。また，この時代の祭祀遺跡としては徳江の反畑遺跡，塚野目の矢ノ目遺跡の存在が知られる。以上のような古墳文化の開花はやはり弥生時代にはじまる水稲耕作による経済基盤の安定化が大きな要因であったろうことは推測するにかたくない。そして，これらの水田が条里水田として国見町の山崎，石母田，森山，大木戸，高域，西大枝，藤田，徳江，塚野目，梁川町東大枝，桑折町北半田，谷地，伊達崎などにおいて機能していたのは，やはり，古墳時代まで溯る根拠は現在のところ十分ではなく，奈良時代以降として現在考えるのが妥当と考えられる。そしてこれらの条里水田によって営農基盤が安定し，集落も安定した構成がなされたであろうし，これらの社会背景に支えられて大木戸の大木戸窯跡群では須恵器の生産が行なわれ，良好な製鉄遺跡として知られる山居製鉄跡に見られるような古代製鉄なども必要とされるようになったものと考えられる。また，これらと同じに徳江廃寺跡なども知られている。

これ以後，古代の終焉というよりは中世の幕あけとでもいった文治五年の阿津賀志山合戦が知られ，この際の遺構をしていまなおその姿をとどめている二重堀跡は，九州の水域に匹敵する規模のものであり，当時の藤原氏が関東の頼朝軍を迎え討つためにどれだけの配備をしたかがしのばれる遺跡である。昨年の調査に於いて部分的に明確となった。この合戦により当地は中村念西一族（伊達氏）により支配されることになる。その後，地頭支配による多くの城館の分布を認めることが出来る。代表的なものとしては，石母田城，塚野目城，藤田城，山崎城，金谷館，森山館，築館，市兵衛館，沖館などがある。これらの城館はいづれもその形状を完全にとどめるものは皆無に近いが，現在観察するに，堀跡，土塁などの遺構の存在が確認される。この中で藤田城の一部昨年調査を実施した西大枝の金谷館について往時の姿の一端を解明出来たことはこれら多くの城館を今後考える上に於いて大きな意義を有するものと思われる。



第２図　遺跡位置図　（G印）　　（1：50,000：桑折）

第１表　周辺の遺跡一覧表　　（番号・記号は第２図に対応する）

番号	名称	10	上川前遺跡	20	山居製鉄跡	30	山田遺跡	40	徳江廃寺跡	D	伊達西部条里遺構若柳田地区
1	雑司屋敷遺跡	11	川原遺跡	21	涌水横穴群	31	振岸遺跡	41	鈴竹遺跡	E	〃 北半田・六丁目地区
2	東畑遺跡	12	堀下古墳	22	大木戸窯跡	32	日暮遺跡	42	東前遺跡	F	〃 谷地地区
3	芳ヶ入遺跡	13	源宗山古墳	23	大木戸古墳群	33	下郡(堀の越)遺跡	43	南林正寺遺跡	G	〃 森山地区
4	下家老遺跡	14	硯石横穴群	24	遠矢崎遺跡	34	鍛冶塚遺跡	44	矢ノ日遺跡	H	〃 高城地区
5	山の神前遺跡	15	上野台古墳	25	沢田遺跡	35	舘ノ内遺跡	45	下入ノ内遺跡	I	〃 大木戸地区
6	日矢来古墳	16	神明遺跡	26	王恒塚古墳	36	上郡遺跡	46	金谷館跡	J	〃 西大枝地区
7	正玄堂遺跡	17	森山古墳群	27	升の内遺跡	37	舟場遺跡	A	伊達西部条里遺構徳江地区	K	〃 山崎地区
8	大清水遺跡	18	舘の内遺跡	28	山岸遺跡	38	塚野目古墳	B	〃 塚野目地区	L	〃 東大枝地区
9	二重堀跡	19	中山原遺跡	29	取場遺跡	39	反畑遺跡	C	〃 藤田地区	M	〃 伊達崎地区

第Ⅱ章　調査経過

第1節　往時の調査

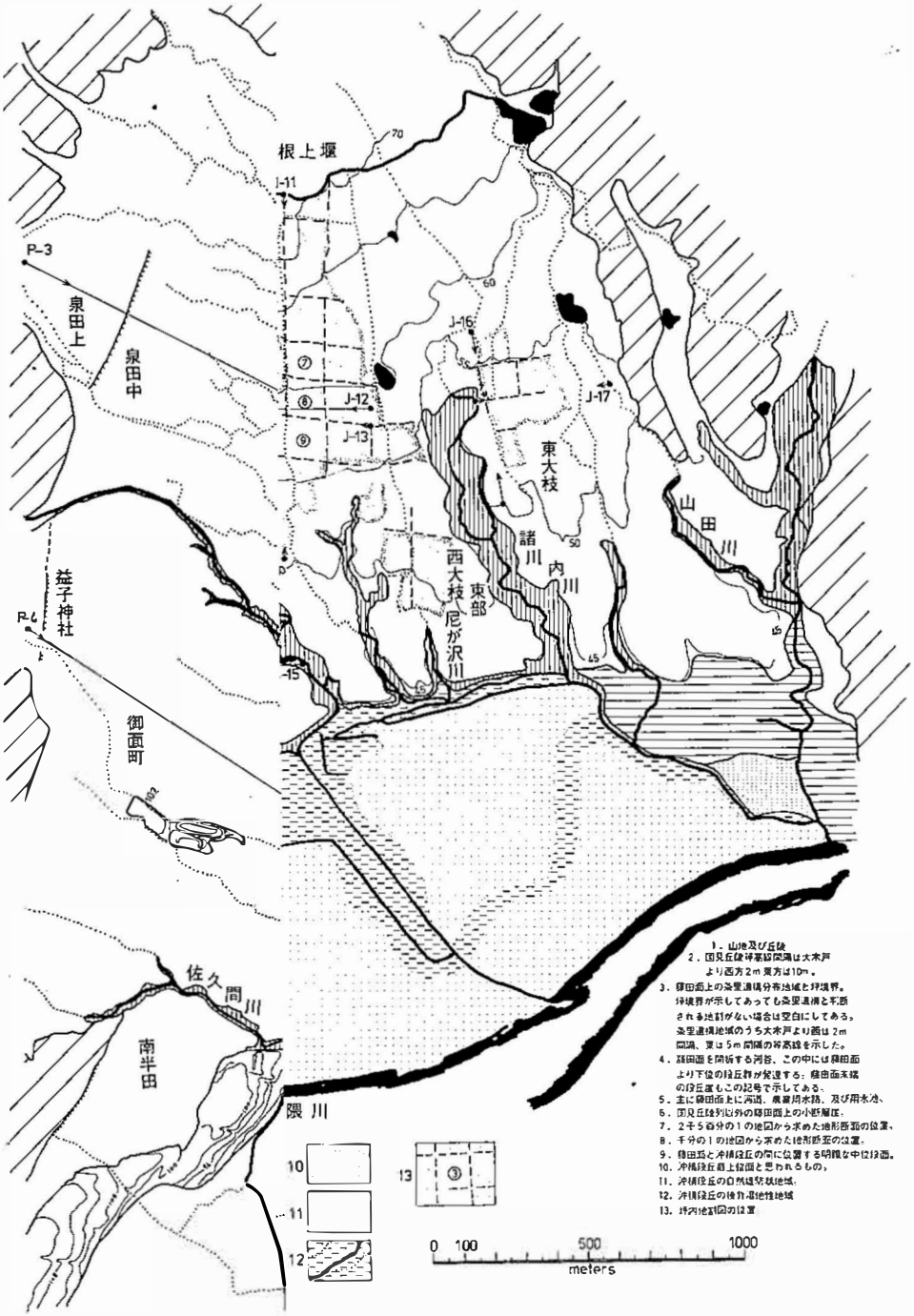
昭和50年以来，県営ほ場整備事業（伊達西部地区）に関する発掘調査と関連の調査を実施して来たが，それらの概要については第２・３表に示した通りである。これらの成果について若干述べておくことにする。

当条里遺構は本県のみならず東北地方有数の規模を有して存在していたが国見町山崎条里など一部を残して失われた。しかし，それらの発掘調査によって旧溝や路及び水田などが検出され地下条里遺構の存在を明らかにした。　即ち，地下条里遺構は地表条里遺構とほぼ一致し，一坪の辺長が約109mを測り，また平行四辺形状の地割を考古学的に確認している。一方，調査所見より現区画数より上回る規模のものであることも推定された。また，微地形や古地図・地籍図・水系調査なども併せて実施し，本条里遺構の特色の抽出に努めている。

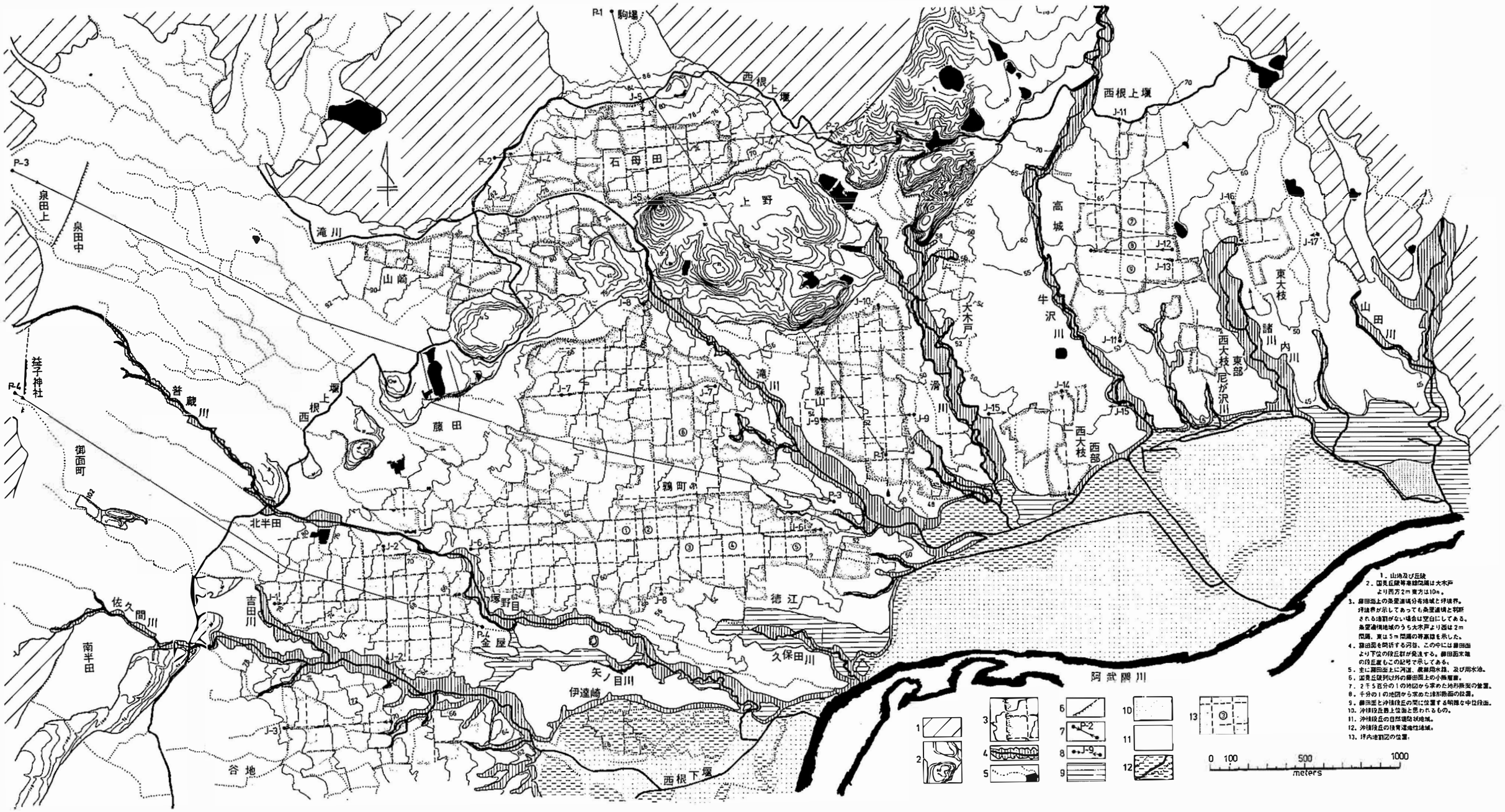
この他，二重堀跡（阿津賀志山防塁）(古代末）や金谷館跡（戦国時代）の発掘調査も実施した。また，調査中や工事中にも貴重な発見があり，仏供田遺跡（弥生時代住居跡），　矢ノ目遺跡（古墳時代祭祀跡），そして下入ノ内遺跡（古墳時代住居跡）の調査も同時に行った。これらの結果については各年度の調査概報（Ⅰ～Ⅲ）や中間的なまとめ（昭和54年度の報告，Ⅳとする）の中で報告した通りであるが，伊達西部地区の原始・古代・中世史に新たな資料と課題を提供した。[1～20]

第２表　伊達西部地区内遺跡の発掘調査　　（昭和50年度～昭和54年度）

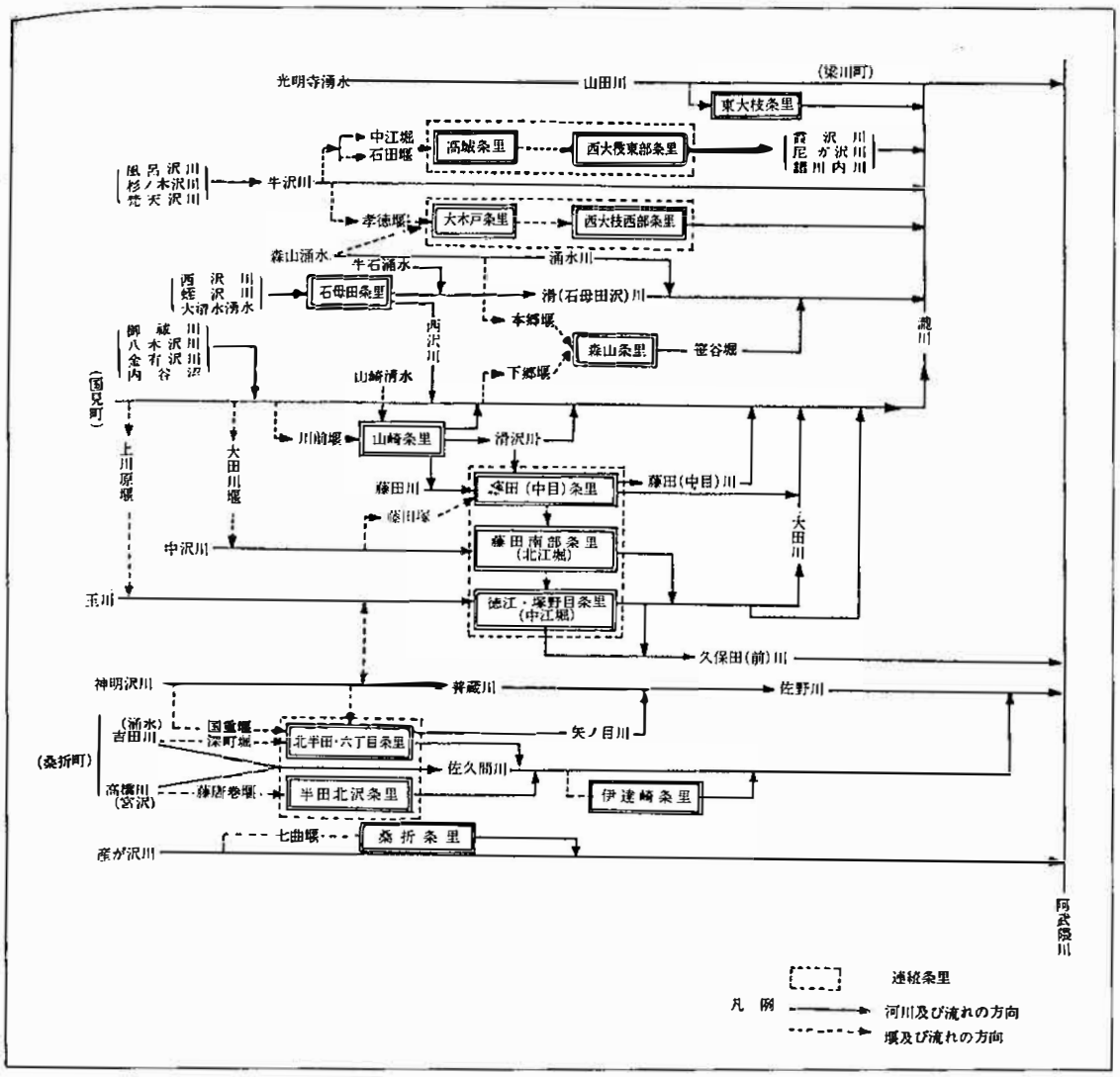
年度	遺跡名	地区名	調査期間	調査主体者及び担当者	調査員	検出遺構	文献
50	条里遺構（徳江）	国見町徳江，森山（滝川以西）	50.12.10～12.23	福島県教委会 目黒　吉明	志賀　豊徳 （現根本） 斎藤　正弘	溝跡 古墓	(1) (13)
51	条里遺構（塚野目）	国見町塚野目	51.10.20～11.17	福島県教委会 菅原　文也	高倉　敏明 鈴木　實夫 橋本　博幸 斎藤　正弘	溝跡	(1) (14)
	仏供田遺跡		51.12.14～12.18			(工事中発見)住居跡	
52	条里遺構（藤田・北半田・谷地六丁目）	国見町藤田 桑折町北半田	52.6.27～7.10 52.7.11～7.14	福島県教委会 日下部善己 菅原　文也	鈴木　實夫 橋本　博幸	溝跡 溝状遺構	(2) (4) (5)
		桑折町谷地六丁目	52.10.19～10.27	福島県教委会 日下部善己		溝跡	(6) (15)
	矢ノ目遺跡	国見町塚野目	52.10.31～11.2			(工事中発見)祭祀跡	(20)



第３図　伊達西部条里遺構分布図



第３図　伊達西部条里遺構分布図



(菊池：1980より)

第4図　伊達西部条里遺構水利灌漑図

年度	遺跡名	地区名	調査期間	調査主体者及び担当者	調査員	検出遺構	文献
53	条里遺構 （石母田谷地 伊達崎 上郡・下郡）	国見町石母田	53.6.19 ～6.30	福島県教委会 日下部善己	鈴木　實夫	溝跡	(3) (7) (8) (16) (17) (18)
		桑折町谷地・伊達崎・上郡・下郡	53.10.2 ～10.20			溝跡，竪穴遺構，水田跡	
	日暮遺跡					（試掘調査） 竪穴遺構	
	壇之越遺跡						
	蝦夷塚遺跡						
	南林正寺遺跡	梁川町東大枝字足洗他	53.11.28 ～12.1			（試掘調査） 土坑他，盛土保存	
54	条里遺構 （森山・大木戸 高城・西大枝 東大枝）	国見町森山(I)・大木戸 高城・西大枝 梁川町東大枝	54.6.21 ～9.14	福島県教委会 日下部善己	寺島　文隆 石本　弘 高木　和夫 大越　忠士 菅原　文也 佐藤　博重 鈴鹿八重子 高橋　信一 藤間　典子 （現高橋）	溝跡， 土坑	(4) (9) (10) (11) (18) (19)
	二重堀跡	国見町森山・大木戸・西大枝	54.4.19 ～11.20			空堀，土塁 二重堀，一条堀 一部現状保存，	
	下入ノ内遺跡	国見町西大枝 字下入ノ内				（調査中発見） 住居跡	
	金谷館跡	国見町西大枝 字下金谷	54.10.13 ～12.21			濠，土塁，建物 井戸，溝，池他	

第3表　伊達西部条里遺構調査の内容

番号	調査事項	調査内容・資料 ＼ 年度	50	51	52	53	54	55
1	条里区画調査	1,000分の1地形図，2,560分の1空中写真，地籍図，現況写真，丈量帳，実測	○	○	○	○	○	○
2	灌漑水調査	現況灌漑施設，写真，国見町史，委託成果品	○	○	○	○	○	○
3	伝承地名古文書古地図調査	委託成果品，地籍図，丈量帳，村絵図，国見町史，郷土の研究	—	—	—	○	○	—
4	微地形調査	委託成果品，現況調査，写真	○	○	○	○	○	—
5	土壌・花粉分析調査	ボーリング調査，花粉分析委託成果品	○ （土壌）	—	—	—	○ （花粉）	—
6	発掘調査	条里区画線及び坪内区画線上にトレンチを設定する。遺構検出の場合は拡張する。	○	○	○	○	○	○
7	報告書刊行	発掘調査成果・委託成果・地形図他	—	概 I	概 II	概 III	(本) (IV)	(本) V

〔註〕　1,000分の1地形図（マイクロフィルムを含む）、2,560分の1空中写真，土壌調査資料は福島県農林計画課（昭和50年当時），石母田地区条里遺構詳細図は，福島県福島農地事務所提供による。

第2節　調　査　経　過

1．調査に至る経過

本年度のほ場整備事業地区である森山Ⅱ区（約40ha）については，事業着手以前の協議によって記録保存の調査を行うことに決しており，その時期が未決事項であったが，福島農地事務所との協議の結果10月以降（稲刈り後）実施ということになった。

しかし，本年度は近年稀な異常気候が続き収穫の時期が大幅に遅れたが，調査は収穫の終了した水田を優先的に行うことによって対応した。これによって予定が若干前後する場合も多々あったが止むを得ないことであった。調査員としては，㈶福島県文化センター遺跡調査課の寺島文隆文化財主事を迎えて体制を整え，また国見町教育委員会の春日一憲社会教育係長の尽力により現場の準備も順調に進行した。なお，調査は主に条里区画想定線上にトレンチを設定したが，2×10m，1×10m，1×20m，1×5mなどの規模とした。

2．調査日誌（抄）

昭和55年10月13日（月）　雨　台風19号通過のため現場作業はできず調査地区内を視察した。

10月14日（火）　雨後晴れ　設定予定トレンチの一部杭打ち作業を行ったが，第23トレンチ付近はほ場整備事業地区外となるとの土地改良区係長の談により調査地区より除外した。

10月15日（水）　曇後晴れ　器材運搬を行い，また作業上の注意を周知させ第20トレンチA区より調査に着手した。次に同B区，第19，21，22トレンチへと進んだ。第20トレンチB区で現水路の脇に溝を確認した。来跡者，福島農地事務所職員3名，菊池利雄町文化財保護審議委員。

10月16日（木）　曇 ～ 10月21日（火）　雨　第15トレンチA～C区，16トレンチA・B区，17トレンチを精査したが後半は大雨のため作業ができなかった。来跡者 春日一憲町社教係長。

10月22日（水）　曇一時雨 ～ 10月月27日（月）　曇時・雨　連日の雨で排水に多くの時間を費した。第7トレンチ（地山深い）～15トレンチ，18トレンチ，24～25トレンチの精査を行った。第8・9A，10，18，25の各トレンチで溝を検出し，第9トレンチB区には攪乱ピットがあった。

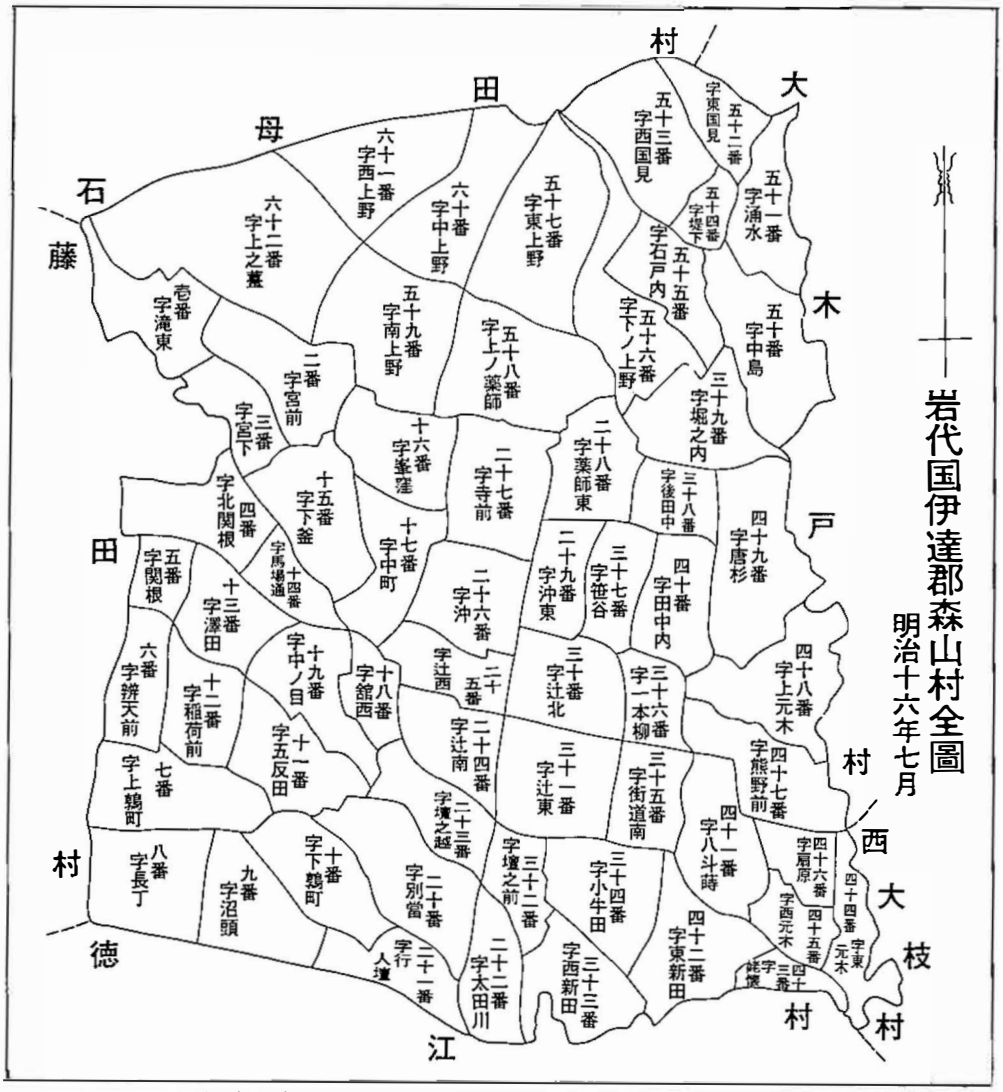
10月28日（火）　曇時々雨 ～ 10月31日（金）　曇時々雨　第1～6，26，27，29，30～32，34，35の各トレンチの精査を行った結果，第2B，3，5A，26の各トレンチで溝を検出した。来跡者，東北福祉大学安田初雄特任教授，佐藤堅治郎福島市文化財保護審議委員。

11月4日（火）　晴れ ～ 11月6日（木）　曇　各トレンチの掘り込み・精査を行ったが，第35トレンチで落ち込み（攪乱）あり。他に現状地割実測（一部），全体写真，区画線写真を行い，作業員には調査成果の説明を行った。また関係者に資料を配布した。[12] 来跡者，国学院大学丸茂武重教授及び学生。11月6日器材を福島へ運び6ヶ年に亘る伊達西部地区遺跡の調査は全て終了した。

第Ⅲ章　遺構と遺物

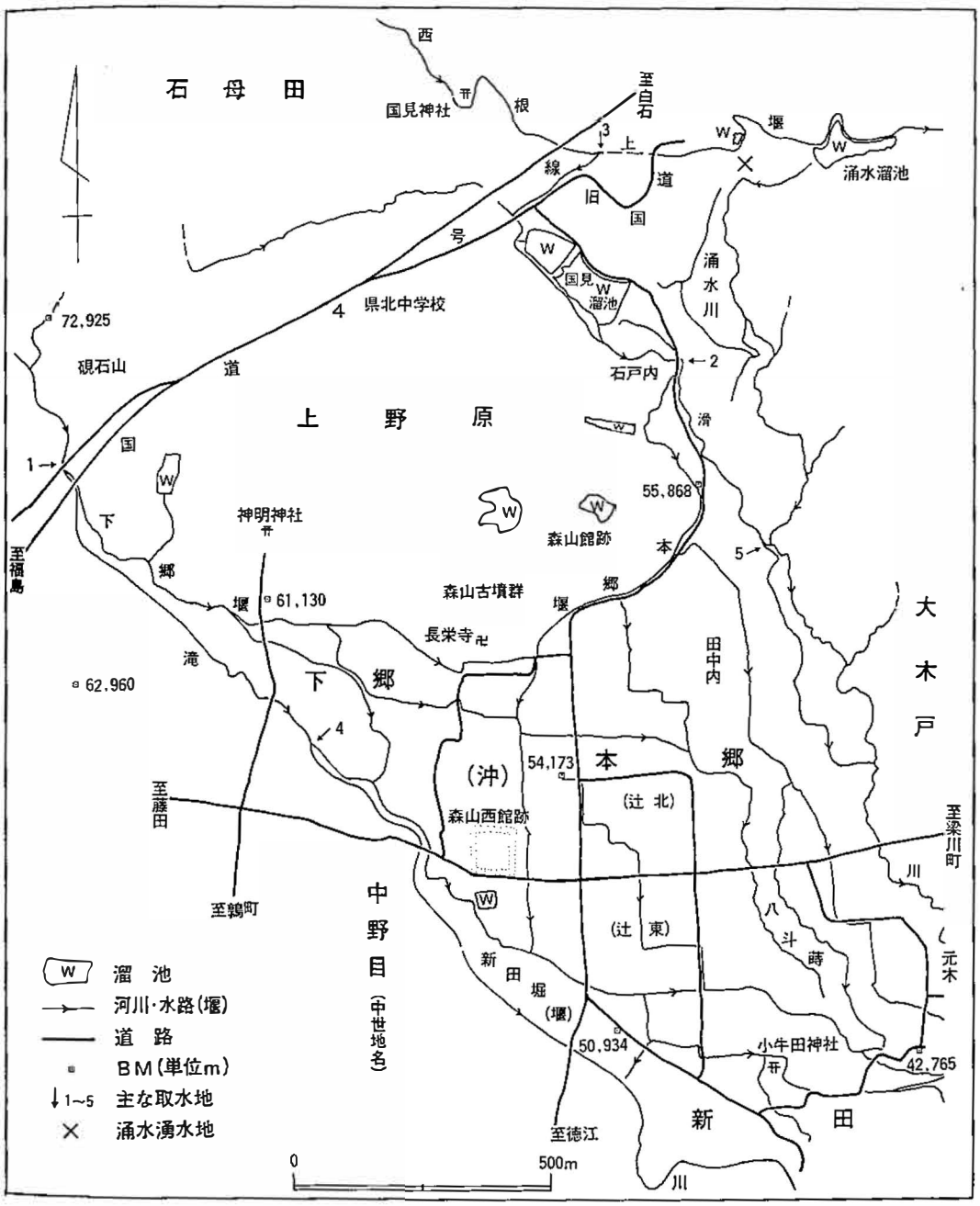
第1節　地表条里遺構

今回の調査対象地区は，国見町大字森山のうち滝川と滑川によって挟まれた部分の平地である。小字名でいえば，辻東（県道五十沢・国見線の南側）や辻北（同じく北側）を中心とする部分で，北は堀之内，南は小牛田，東は一本柳そして西は宮下付近までである。



第5図　岩代国伊達郡森山村全図（福島県歴史資料館より）　（縮尺1：3.1　方位にずれがある）

当地における条里の坪数は，木庭や菊池の観察によれば，約30坪を数えるが，各坪内の地割は必ずしも一定はしていない。その様子については付図などに示す通りである。この坪割については，その区画線の交点を付図中に□印で示しているが，その間隔は約109m（1町）である。設定の基準は，県道五十沢・国見線（東西方向）とこれに直交する辻北と辻西との境界線（道路）で



第6図　森山地区（滝川以東）水利図

ある。なお，この条里の軸方向はN1.5°Wを示す。

地形的には比較的平坦な地域（藤田面上）であるが，東には滑川の谷が観察され，字一本柳の東付近にも小さな谷が見られ，条里線が乱れている。このことは滝川沿岸でも同様である。

次に水利灌漑について述べておくことにする。五千分の一の地形図によって主な道路と水路を示したのが第6図である。これによって流水は西から東へ，北から南へと進んでいることが知られ，滝川や滑川が大きな役割を果していることがわかる。即ち取水地として滝川が国道4号線と交叉する地点（矢印1），滑川岸の石戸内地内(矢印2）を掲げることができる。またこの滑川へは西根上堰よりも水が落とされており（矢印3），本堰の役目も極めて大きい。しかし，これは近世以降のものであり，それ以前の森山地区の水利灌漑を考える場合前二者の水（即ち下郷堰と本郷堰）や涌水湧水（涌水川）の役割が非常に大きいのである。この他に館の濠や溜池も見のがせない灌漑水といえよう。

さて，以上の地表条里区画（坪）線上に主としてトレンチを設定して調査を行った。トレンチは，1～35まであるが，A～D区に細分したところもある。以下検出した遺構と遺物についての所見を述べることにする。

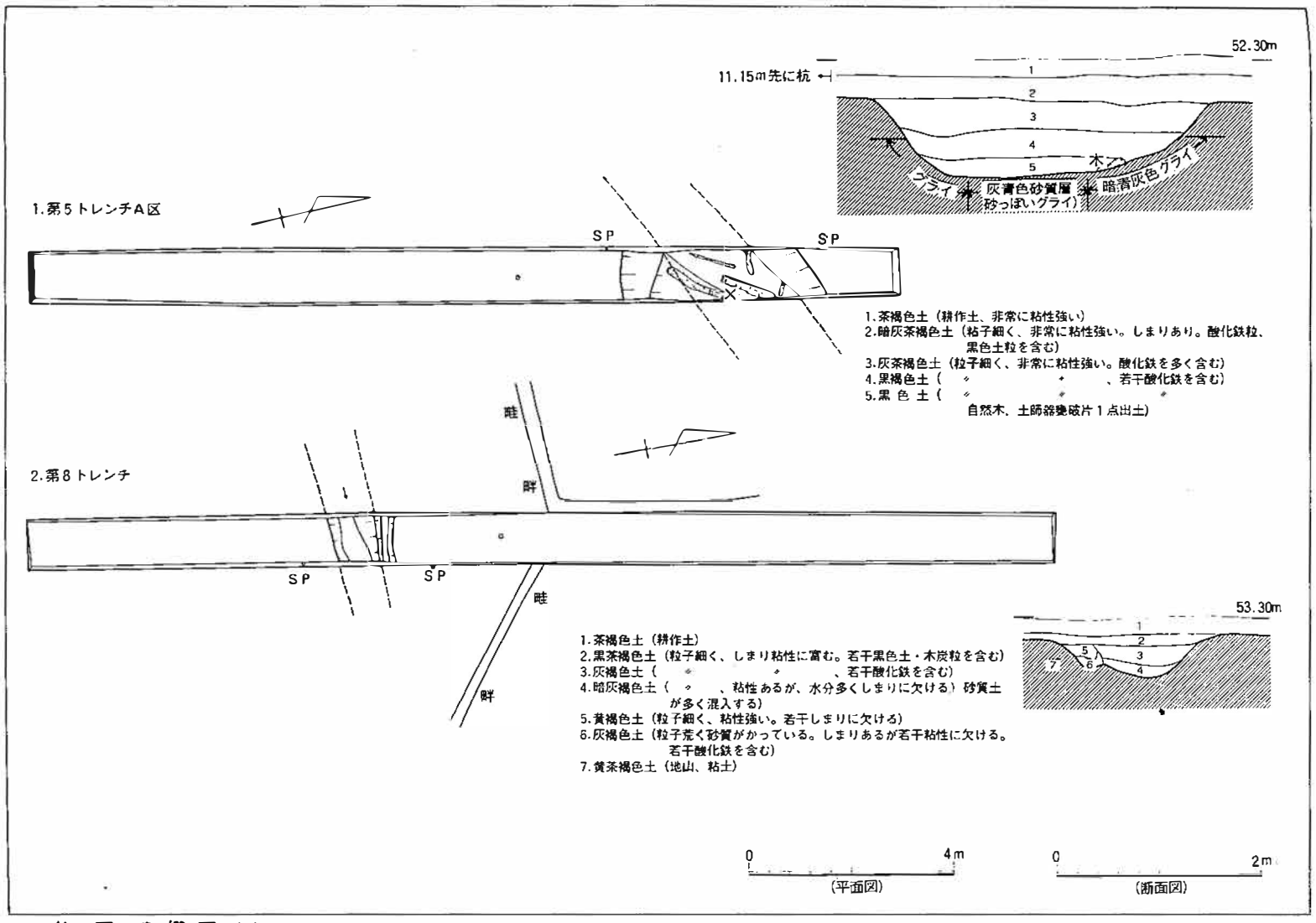
なお，伊達西部条里遺構の主要部については，航空写真を掲載したので参照されたい。

第2節　溝・その他

地下遺構としての溝は，5A，8，9A，10，18，20B，25，26の各トレンチで検出されている。これらは比較的大規模のものと小規模のものに分類できる。以下に各溝の調査所見や比較的多くの遺物を出土した第11トレンチについて述べて行くことにする。(付図，第7～9図)

1．第5トレンチA区　（第7図）

本トレンチは，字笹谷の西東に走る水路が鉤形になっている部分（f－V）の水路の変化を調査するために南北方向に設定したものである。現水田面より約40～46cmで黄茶褐色の所謂地山に達する。トレンチの北側の地山面で，幅約3.4～4.0mを測る黒褐色土を呈する落ち込みを検出した。この落ち込みを掘り込んだ結果，上端幅3.4～4.0m，下端幅1.8～2.6mで，深さ約80cmを測る断面皿状の溝が検出された。溝の法面の傾斜角は約45～50度である。溝の底面より約38cm上までグライ化した部分を認めることが出来る。溝の底面は若干東に傾斜しているもののほぼ平坦である。この底面より流木が出土している。この流木の幅は約15～20cm前後を測る断面不整円形を呈するものである。他に出土した遺物は，土師器甕形土器破片1点のみである。以上のことより従来水路は東側部分の水路が西に延長するような線上にあり，後世に北側に鉤形に流路が変更されたことが判明した。


52.30m
11.15m先に杭
1
2
3
4
5
木
グライ
灰青色砂質層
(砂っぽいグライ)
暗青灰色グライ
1.第5トレンチA区
SP
SP
1.茶褐色土（耕作土、非常に粘性強い）
2.暗灰茶褐色土（粒子細く、非常に粘性強い。しまりあり。酸化鉄粒、黒色土粒を含む）
3.灰茶褐色土（粒子細く、非常に粘性強い。酸化鉄を多く含む）
4.黒褐色土（〃 〃 、若干酸化鉄を含む）
5.黒 色 土（〃 〃 〃
自然木、土師器甕破片1点出土）
畦
畔
2.第8トレンチ
SP
SP
畦
畔
53.30m
1
2
3
4
5
6
7
1.茶褐色土（耕作土）
2.黒茶褐色土（粒子細く、しまり粘性に富む。若干黒色土・木炭粒を含む）
3.灰褐色土（〃 〃 、若干酸化鉄を含む）
4.暗灰褐色土（〃 、粘性あるが、水分多くしまりに欠ける）砂質土が多く混入する）
5.黄褐色土（粒子細く、粘性強い。若干しまりに欠ける）
6.灰褐色土（粒子荒く砂質がかっている。しまりあるが若干粘性に欠ける。若干酸化鉄を含む）
7.黄茶褐色土（地山、粘土）
0
4m
(平面図)
0
2m
(断面図)

第7図 遺構図 (1)

2．第8トレンチ　（第7図）

本トレンチは，字沖東の水田区画が整然としない部分に，東西の条里区画想定線（p－g）に直交するように設定した。本トレンチでは現水田面下約18～20cmで黄褐色土の所謂地山面に達する。トレンチの南側部分の地山面に幅1.08～1.32mを測る黒茶褐色土の落ち込みが検出された。この落ち込みを掘り込んで行くと上端幅約1.08～1.32m，下端幅約28～48cmを測る断面皿状を呈する。深さは確認面より約20～40cmを測る。トレンチの中央よりやや南寄りに検出されたことになり，溝は東流することが判明した。法面の傾斜角は約45～48度を測る。遺物の出土は認められなかった。

3．第9トレンチA区　（第　図）

g－hライン東に設定した1×48.5mの東西トレンチで西20mをA区，その東部分をB区とした。字名でいえば辻北の北端部に当るが，このうちA区内に南北に走る2ヶ所の落ち込みを検出した。一つは溝であるが他の一つは不明である。その規模は，上端幅7.1cm，下端幅15cmで底は鍋底状で深さは26cmである。堆積は自然状態を示しているが，埋土はしまりのある粘土層である。出土遺物としては，陶器（擂鉢）1，磁器（椀）1であるが，いずれも第1層出土である。

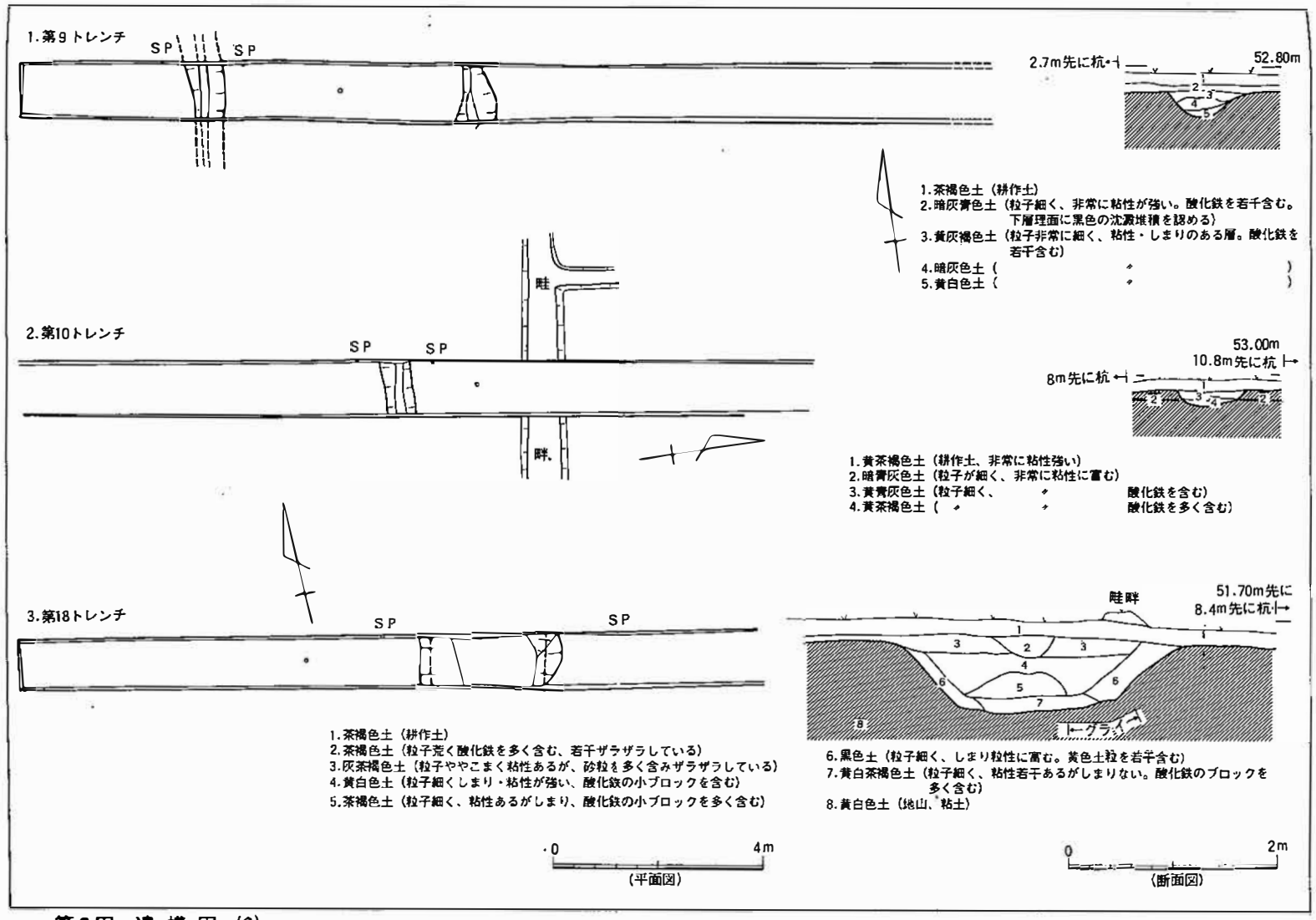
この溝は，g－hライン上にある現水路に比べて若干小規模であるが，何らかの形でこれに関係した時期があるものと考えられる。

4．第10トレンチ　（第8図）

q－hライン上に設定した1×20.5mの南北トレンチで，字辻北の中央よりやや西に寄った地点に位置する。中央の畦畔付近に溝を検出し，その規模は，上端幅55cm，下端幅20cm，深さ15cmで断面は皿状を呈する。これによってq－hライン上にかつて水路が存在していたことが想定された。出土遺物は陶器1点である。これは最近金谷館や多賀城跡などで検出されているものに類似している。

5．第11トレンチ　（付図）

本トレンチは，字辻北地区のg－hラインの水路が南流するかどうか確認するためq－hラインに平行して東西に設定したものである。その結果若干グライ化した部分を認め得たが，水路としては不明確なものであった。現水田面より約20cmで地山（確認面）に達する。このトレンチ内より，今回の調査においては比較的多量な遺物の出土を見た。遺物は第2層より出土しており，トレンチのほぼ東半に集中して出土している。須恵器（甕破片5点）と陶磁器片3点を数える。須恵器は表面に平行叩き目と裏面には当て道具の跡が認められるものである。ほとんどのものは磨滅している。陶磁器片は施釉されたものであり，器形は椀形を呈するものと思われる。中には内面に窯道具の「トチ」の痕跡を残すものも認められる。


1.第9トレンチ
SP
SP
2.7m先に杭
52.80m
1.茶褐色土（耕作土）
2.暗灰青色土（粒子細く、非常に粘性が強い。酸化鉄を若干含む。下層理面に黒色の沈澱堆積を認める）
3.黄灰褐色土（粒子非常に細く、粘性・しまりのある層。酸化鉄を若干含む）
4.暗灰色土（　〃　）
5.黄白色土（　〃　）
畦
2.第10トレンチ
SP
SP
畔
53.00m
10.8m先に杭
8m先に杭
1.黄茶褐色土（耕作土、非常に粘性強い）
2.暗灰色土（粒子が細く、非常に粘性に富む）
3.黄青灰色土（粒子細く、　〃　酸化鉄を含む）
4.黄茶褐色土（　〃　〃　酸化鉄を多く含む）
3.第18トレンチ
SP
SP
畦畔
51.70m先に
8.4m先に杭
グライ
1.茶褐色土（耕作土）
2.茶褐色土（粒子荒く酸化鉄を多く含む、若干ザラザラしている）
3.灰茶褐色土（粒子ややこまく粘性あるが、砂粒を多く含みザラザラしている）
4.黄白色土（粒子細くしまり・粘性が強い、酸化鉄の小ブロックを含む）
5.茶褐色土（粒子細く、粘性あるがしまり、酸化鉄の小ブロックを多く含む）
6.黒色土（粒子細く、しまり粘性に富む。黄色土粒を若干含む）
7.黄白茶褐色土（粒子細く、粘性若干あるがしまりない。酸化鉄のブロックを多く含む）
8.黄白色土（地山、粘土）
0
4m
（平面図）
0
2m
（断面図）

第8図　遺構図（2）

6．第18トレンチ　（第８図）

ｊ－ｋライン上に設定した１×20ｍの東西トレンチで，字辻東の中央より南に位置する。ここで南北に走る大きな溝が検出されたが，その規模は上端幅2.88ｍ，下端幅1.28ｍ，深さ78cmを計り，断面は逆台形状を呈する。法面付近には黒色土のベルトが見られ，底部はグライ化しており，中位以上は人工的埋土と考えられる。出土遺物はない。

7．第20トレンチＢ区　（第９図）

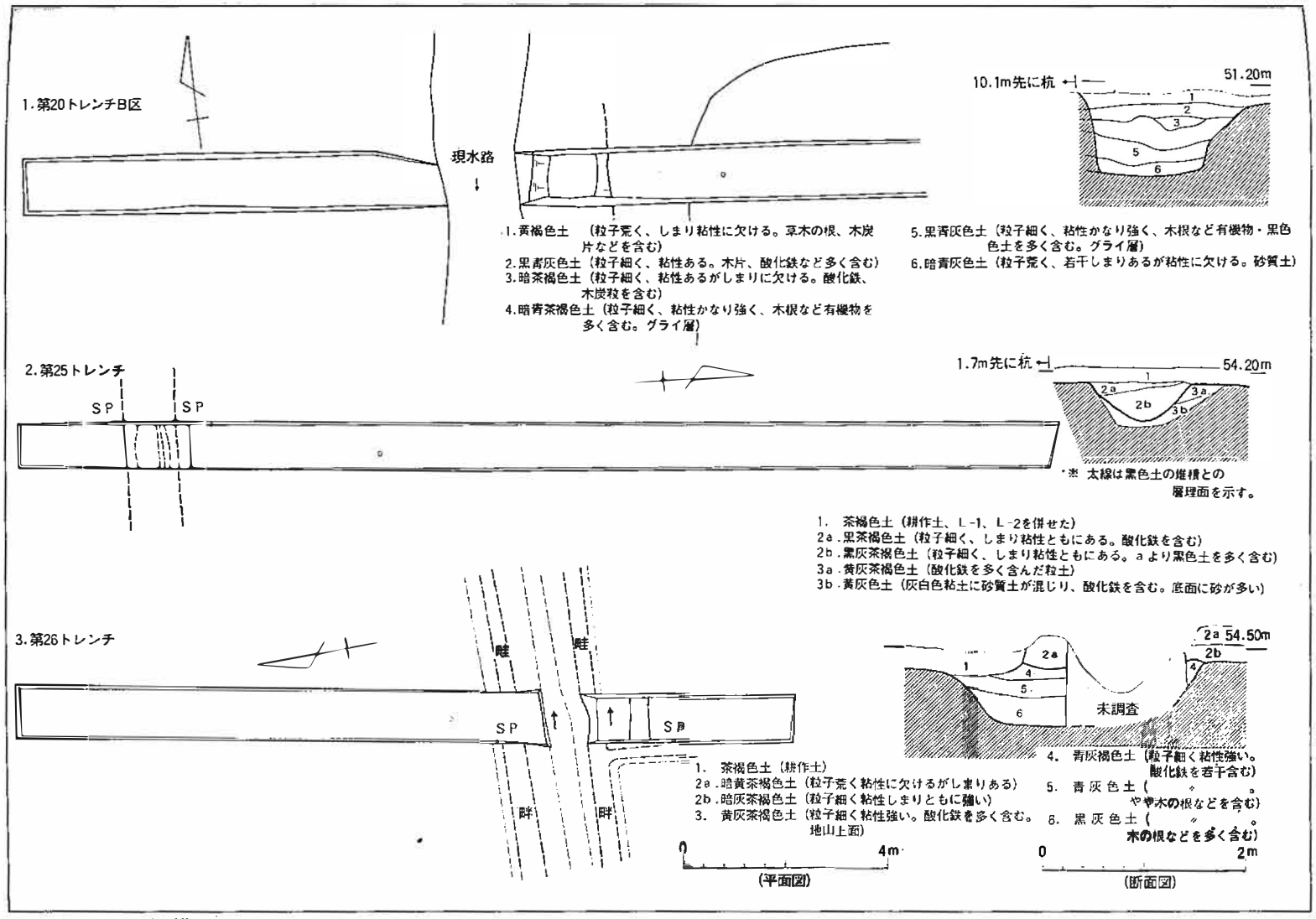
ｋ－ｌライン上に設定した１×20.5ｍの東西トレンチで，字壇之前と字小牛田の接線上に位置する。現水路に接して旧い溝が検出されたが，半分のみの調査である。深さは68cmで法面は上半がやや緩やかで下半は急である。埋土は下半がグライ化しているが人工的埋土と考えられる。古老の話しでは昭和に入ってから（戦後か？）埋めたという。出土遺物はない。以上の２つのトレンチの所見によって，ｊ－ｌライン上の水路の存在が明瞭となった。

8．第25トレンチ　（第９図）

本トレンチは，字寺前のｖ－ｏラインに直交するようにほぼ南北に設定したものである。現水田面より約14～18cmの深さで黄茶褐色の地山に達する。この確認面の南端部分に黒灰茶褐色土の帯状の落ち込みが認められた。この帯状の落ち込みを掘り込んで行くと，上端幅約1.28ｍ，下端幅約88cm，深さ約42cmを測る溝状を呈することが判明した。この遺構の断面形は諸薬研状を呈するものである。溝の法面の傾斜は，北法が35度，南法60度を測る。実際の堀形は現数値よりは縮少していたと考えられる。この溝の流路は東方である。平トレンチの出土遺物を見ると，白色の緻密な胎土の陶磁器片（椀？）で内面に半透明の白色釉を施した破片と茶褐色の胎土で内面に細かい多くの筋目をつけた比較的新しいタイプの擂鉢の破片が出土しているのみで遺構と関連すると認められるものではない。

9．第26トレンチ　（第９図）

本トレンチは，字寺前と沖にわたる地区のロ～ｖの条里想定線と現水路とのズレを確認するために南北に設定したものである。この地域も他の地域と同様現水田面より約24cmで確認面に達する。トレンチの南半部には現在水路が東流している。この水路は現在上端幅約13.0ｍ，下端幅約28～44cm，深さ約64cmを測る比較的小規模な水路である。調査の結果はこの水路の北側の水田部分においても南に落ち込む落ち込みが確認されていることから従来この水路は上端幅約2.48ｍ，下端幅約1.42ｍ，深さ約1.00ｍを測る断面諸薬研を呈する水路であったろうことが推測される。水路の幅が違うが第25トレンチで確認した水路跡の位置とほぼ一線上にあることは注目して良い。出土遺物を見ると，第１・２層より茶色の鉄釉(？)と思われるものを施した陶磁器片と灰白色の緻密な胎土の陶磁器片（半透明の施釉）の出土が認められる。この他に土師器（甕）破片１点が出土している。これらの遺物はいづれも遺構との関連は認められるものではない。


1.第20トレンチB区
現水路
1.黄褐色土 (粒子荒く、しまり粘性に欠ける。草木の根、木炭片などを含む)
2.黒青灰色土 (粒子細く、粘性ある。木片、酸化鉄など多く含む)
3.暗茶褐色土 (粒子細く、粘性あるがしまりに欠ける。酸化鉄、木炭粒を含む)
4.暗青茶褐色土 (粒子細く、粘性かなり強く、木根など有機物を多く含む。グライ層)
10.1m先に杭
51.20m
5.黒青灰色土 (粒子細く、粘性かなり強く、木根など有機物・黒色土を多く含む。グライ層)
6.暗青灰色土 (粒子荒く、若干しまりあるが粘性に欠ける。砂質土)
2.第25トレンチ
SP
SP
1.7m先に杭
54.20m
*※ 太線は黒色土の堆積との層理面を示す。
1. 茶褐色土 (耕作土、L-1、L-2を併せた)
2a.黒茶褐色土 (粒子細く、しまり粘性ともにある。酸化鉄を含む)
2b.黒灰茶褐色土 (粒子細く、しまり粘性ともにある。aより黒色土を多く含む)
3a.黄灰茶褐色土 (酸化鉄を多く含んだ粒土)
3b.黄灰色土 (灰白色粘土に砂質土が混じり、酸化鉄を含む。底面に砂が多い)
3.第26トレンチ
畦
畦
SP
SP
畔
畔
1. 茶褐色土 (耕作土)
2a.暗黄茶褐色土 (粒子荒く粘性に欠けるがしまりある)
2b.暗灰茶褐色土 (粒子細く粘性しまりともに強い)
3. 黄灰茶褐色土 (粒子細く粘性強い。酸化鉄を多く含む。地山上面)
0
4m
(平面図)
2a 54.50m
2b
未調査
4. 青灰褐色土 (粒子細く粘性強い。酸化鉄を若干含む)
5. 青灰色土 (〃 。やや木の根などを含む)
6. 黒灰色土 (〃 。木の根などを多く含む)
0
2m
(断面図)

第9図 遺構図 (3)

第３節　その他の遺物

以上に述べた各トレンチ以外からも幾つかの遺物が出土している。それらは第４表に示してある通りであるが，土師器，須恵器，陶磁器の破片や，石板，弾丸(?)そして石片などである。これらは，ほとんどが第１層（耕作土）や第２層（すき床）付近より出土したものである。時期的にも古代～現代までに及んでいる(第10図)。

トレンチ別にその全体類を示すと以下の通りである（前出のものを除く）。第1トレンチＡ区(1)，第２トレンチＡ区(3)・同Ｂ区(1)・同Ｃ区(2)，第６トレンチＡ区(1)，第７トレンチＡ区(1)，第12トレンチＡ区(2)，第13トレンチＡ区(7)・同Ｂ区(1)・同Ｃ区(1)，第15トレンチＡ区(1)・同Ｂ区(1)・同Ｃ区(1)・同Ｄ区(2)，第16トレンチＡ区(2)・同Ｂ区(1)，第17トレンチ(1)，第27トレンチ(5)，第28トレンチ(1)，第29トレンチ(1)，第32トレンチ(2)，第33トレンチ(4)，第34トレンチ(8)，第35トレンチ(4)，表面採集(8)，不明(1)。

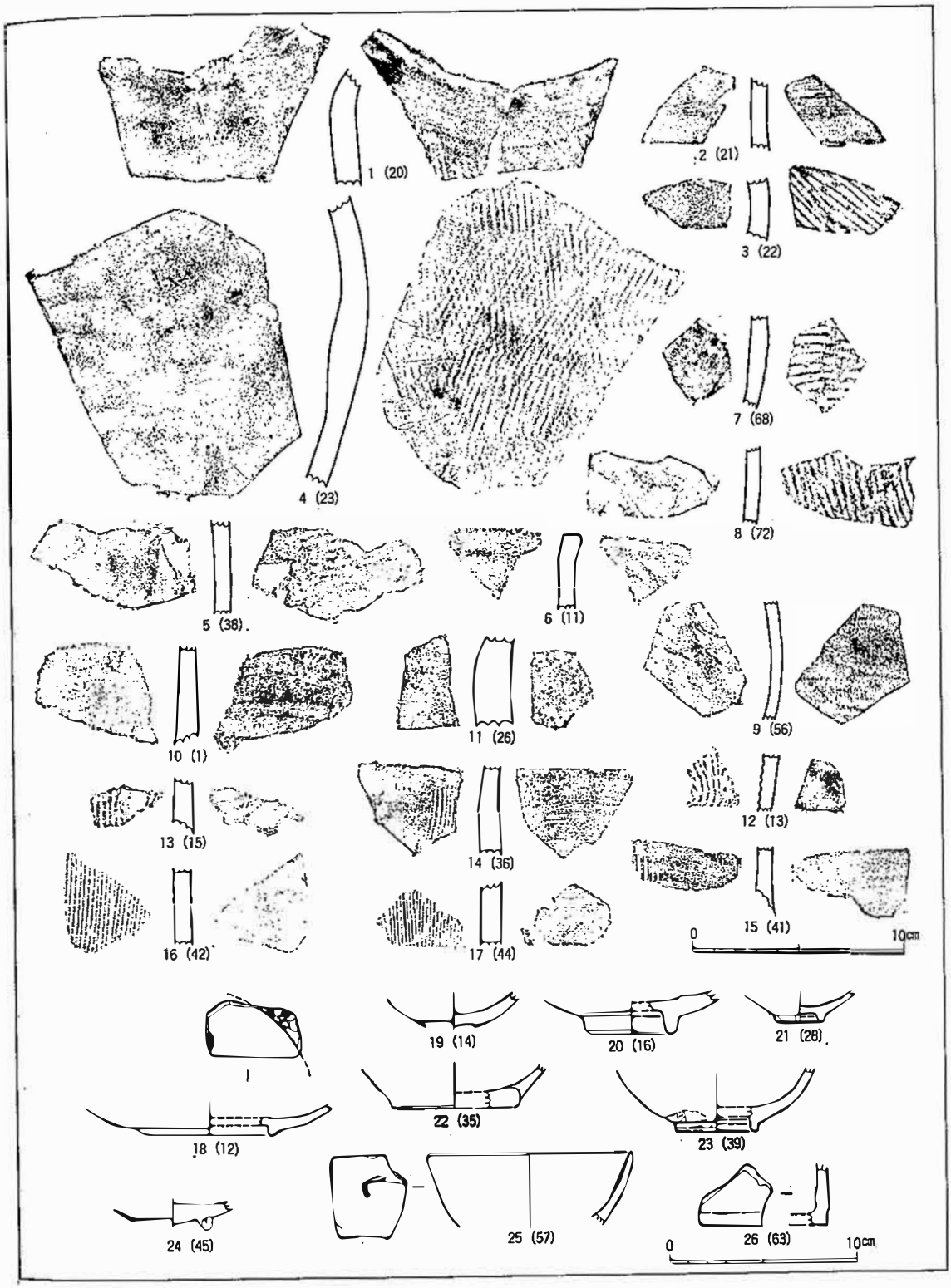
全体として遺物の出土数が少なく，いずれも小片で磨滅の激しいものが多いためにその内容を良くは握しにくいものが多いのは残念である。第１次～第５次における調査においても同様のことがあり，条里水田の調査の難しさがこの点にもあることが知られる。

第４表　出土遺物一覧表

資料No	資料名	地区遺構	層位	色調 外面	色調 内面	器厚(cm)	部分	観察・その他	図No	写真No
1	陶器（甕）	1Ａトレンチ	Ｌ－1	赤紫白灰	暗赤紫灰	0.8	胴部	ロクロ，内面に降灰痕(?)あり	10－10	
2	〃（鉢？）	〃	〃	赤褐	暗灰褐	1.6	〃	ロクロ，外面に不定形の波文(指痕？)あり		
3	磁器(碗？)	〃	〃	青灰・青の文様	紫白灰	0.6	〃	ロクロ，外面薄青の染付		Ⅵ－14
4	石板	〃	〃	黒	黒	0.4	上部	スリット(使用痕あり) 内・外面とも		
5	磁器	〃	〃	青灰	青灰	0.35	胴部	内・外面とも青灰色釉，貫入が認められる		
6	陶器	2Ａトレンチ	〃	黄緑灰	紫褐・暗緑灰	0.7	〃	ロクロ，内外面とも黄褐緑の釉，断面は赤茶色		
7	〃	〃	〃	暗黒灰	暗黒灰	0.68	〃	暗緑の釉，貫入を認める		
8	不明	〃	〃	黄灰褐	黄灰褐	0.7	〃	磨滅が激しい		
9	陶器	2Ｂトレンチ	Ｌ－2	赤褐	黄褐	1.15	底部	ロクロ，胎土に砂粒を含む，焼成不良		
10	〃	2Ｃトレンチ	〃	暗黄緑	暗黄緑	0.62	胴部	No7に類似する		
11	〃（甕？）	〃	〃	暗灰	暗灰	0.9	口縁部	外面にアテ道具痕あり，内面に降灰の痕跡？	10－6	
12	磁器（皿）	6Ａトレンチ	Ｌ－1	青灰・焼のぼかし	青灰・青の文様	0.6	底部	内面青色の染付，胎土・焼成良好	10－18	Ⅵ－13
13	陶器(擂鉢)	7Ａトレンチ	Ｌ－2	紫黒褐	紫黒褐	0.72	胴部	クシ目の交叉部	10－12	Ⅵ－11
14	磁器（碗）	9Ａトレンチ	Ｌ－1	緑灰	緑灰	0.55	底部	内外面に緑灰の釉，貫入を認める，ロクロ	10－19	Ⅵ－16
15	陶器(擂鉢)	〃	〃	赤褐	赤褐	1.15	胴部	焼成不良，クシ目６本まで確認	10－13	Ⅵ－12
16	〃（碗）	10Ａトレンチ	Ｌ－1	青灰	青灰・青のぼかし	0.65	底部	内外面青灰の釉，内面にトチ痕，高台は削り出し，ロクロ，内面に貫入，金谷期や多賀城でも出土している	10－20	Ⅵ－20
17	〃	11Ａトレンチ	Ｌ－2	黄白灰	黒	1.0	胴部	内面に段あり		
18	〃	〃	〃	暗紫褐・灰	緑灰	0.62	〃	内外面に釉		
19	〃（甕）	〃	〃	暗緑・灰・茶褐の上に白横線	茶褐・緑	0.65	口縁部	内外面 茶や緑の釉		

資料No	資料名	地区遺構	層位	色調 外面	色調 内面	器厚(cm)	部分	観察・その他	図No	写真No
20	須恵器(壺)	11Aトレンチ	L－2	暗灰	暗灰	1.15	胴部	外面ロクロ、一部タタキ、内面ロクロ、指痕	10－1	Ⅵ－6
21	〃	〃	〃	灰・黄土付着	〃	0.85	〃	ロクロ	10－2	
22		〃	〃	灰	〃	1.05	〃		10－3	Ⅵ－5
23	〃（甕）	〃	〃	〃	〃	1.60	〃	外面タタキ，内面アテ道具痕	10－4	
24	土師器 ?	12Aトレンチ	L－1	暗褐	黒	0.80	〃	磨滅が激しい		
25	陶器	〃	〃	暗黒褐	暗黒褐	0.30	〃	内外面釉		
26	〃（甕）	13Aトレンチ	〃	黒灰	黄灰	1.19	〃	ロクロ、外面口降灰の跡	10－11	
27	磁器	〃	〃	白青灰	白青灰	0.30	〃	内外面釉		
28	陶磁器(碗)	〃	〃	緑灰	緑灰	0.32	底部	ロクロ痕，内外面釉，貫入を認める，削り出し高台，トチ痕あり，底径2.4cm	10－21	Ⅵ－18
29	?	〃	〃	白	白	0.60	口縁部	磨滅が激しい		
30	磁器	〃	L－2	白に青の文様	〃	0.20	胴部	青の染付		
31	〃	〃	〃	瓶に瑞祝の文様	青灰	0.42	口縁部	淡青の染付		
32	〃	〃	〃	白	白	0.22	〃	焼成良好		
33	〃	14Bトレンチ	L－1	暗緑灰	暗緑灰	0.48	胴部	暗緑の釉，貫入あり，ロクロ痕		
34	〃	14Cトレンチ	〃	黒	暗乳灰	0.31	〃	ロクロ痕		
35	土師器	15Aトレンチ	1層	黄褐	黒	0.56	底部	磨滅が激しい	10－22	
36	陶器(擂鉢)	15Bトレンチ	L－2	茶褐	灰茶褐	0.92	胴部	ロクロ痕，クシ目7本まで確認	10－14	Ⅵ－8
37	〃（壺？）	15Cトレンチ	〃	緑灰	明褐	0.37	口縁部	内面釉，ロクロ痕		
38	須恵器	15Dトレンチ	〃	暗灰	灰	0.81	胴部	外面タタキ	10－5	
39	磁器（碗）	〃	〃	緑灰	緑灰	0.50	底部	ロクロ痕，内外面釉・貫入あり，削り出し高台	10－23	Ⅵ－19
40	〃	16Aトレンチ	L－1	白に青の文様	白	0.73	胴部	外面絵柄あり		
41	陶器(擂鉢)	〃	L－2	暗黒褐	暗黒褐	0.78	〃	ロクロ痕，クシ目4本まで確認	10－15	Ⅵ－7
42	〃（〃）	16Bトレンチ	L－1	赤紫褐	赤褐	0.87	〃	クシ目11本まで確認	10－16	Ⅵ－9
43	〃	17 トレンチ	〃	暗黄緑	暗黄緑	0.81	〃	内外面釉		
44	〃（擂鉢）	25Aトレンチ	〃	茶褐	暗茶褐	1.13	〃	〃 クシ目8本まで確認	10－17	Ⅵ－10
45	〃（碗）	〃	〃	乳白	乳白	0.60	底部	内外面釉，削り出し高台，ロクロ痕	10－24	Ⅵ－21
46	〃	〃	L－2	暗黄緑	暗黄緑	0.52	胴部	内外面釉		
47	〃	26Aトレンチ	L-1.2	明黄褐	黄褐	1.37	〃	磨滅が激しい		
48	磁器	〃	〃	暗茶褐	暗茶褐	0.42	〃	ロクロ痕，内外面釉		
49	〃	〃	〃	灰白	灰白	0.46	〃	〃 〃		
50	〃	27Aトレンチ	L－1	明緑灰	明緑灰	0.42	〃	内外面釉，貫入あり		
51	〃	〃	〃	白に青の笹文様	白	0.38	〃	外面絵柄（型か）		
52	〃	〃	〃	黒	黒	0.65	〃	内外面釉		
53	〃	〃	L－2	灰白に灰の文様	灰白	0.68	〃	外面染付		
54	土師器	〃	〃	黄褐	褐	0.36	〃	磨滅が激しい		
55	陶磁器	28Aトレンチ	〃	黒緑	黒緑	0.75	〃	内外面釉・貫入あり，ロクロ痕		
56	須恵器	29Aトレンチ	L－1	灰	灰	0.58	〃	内面アテ道具痕	10－9	
57	磁器（碗）	32Aトレンチ	L－2	瓶に青の文様	青灰	0.80	口縁部	外面染付	10－25	Ⅵ－15
58	陶器	〃	〃	青灰	青灰	0.65	〃	内外面釉		

資料No	資料名	地区遺構	層位	色 外面	色 内面	厚(cm)	部分	観察・その他	図No	写真No
59	磁器	33Aトレンチ	L－1	白に青の文様	白に青の文様	0.49	胴部	内外面染付		
60	陶器	〃	〃	灰黄緑	暗黄緑	0.68	〃	内外面釉，唐津か？		
61		〃	〃	灰白に青の文様	灰白に青の文様	0.32	口縁部			
62	磁器	34Aトレンチ	〃	白灰に焼色付着物	白灰	0.30	胴部	ロクロ痕，外面に茶色の斑点（粘土粒）多数		
63	陶器(角鉢?)	〃	〃	暗青灰	暗青灰	0.68	底部	底部に布痕あり（型か）	10－26	Ⅵ－17
64	磁器	〃	〃	白	白	0.29	胴部	ロクロ痕		
65	〃	〃	〃	白に橙の文様	明橙	0.35	〃	〃，施釉後に絵を付けている		
66	〃	〃	〃	乳灰	乳灰	0.42	〃	内外面釉		
67	弾丸(?)	〃	〃	白	白	1.30	全体	パチンコ玉状		
68	須恵器	〃	3層 灰色土	灰	灰	0.92	胴部	外面タタキ	10－7	
69	土師器(甕)	〃	〃	白褐	黒	0.52	口縁部	外面タタキ，磨滅が激しい。		
70	磁器	35Aトレンチ	L－1	暗黒褐	暗黒褐	0.55	〃	内外面釉		
71	陶器	〃	〃	暗褐に白の文様	暗褐に白の文様	0.45	胴部	〃		
72	須恵器	〃	〃	灰	暗灰	0.79	〃	外面タタキ，内面アテ道具痕	10－8	
73	磁器	〃	L－2	明緑灰	明緑灰	0.30	口縁部	内外面釉，貫入あり		
74	陶器	表採	－	赤褐	暗黒褐	1.15	底部	ロクロ痕		
75	〃	〃	－	暗茶褐	暗黄緑	0.71	胴部	内外面釉		
76	〃	〃	－	青灰	乳灰	0.58	口縁部	〃		
77	磁器	〃	－	白に橙のぼかし文様	白に橙のぼかし文様	0.42	胴部	ロクロ痕		
78	〃	〃	－	白灰に青の文様	白灰	0.58	〃	〃，外面染付		
79	土師器(甕)	〃	－	黒・灰褐	灰褐	0.73	〃	外面ケズリ，胎土に砂粒を含む		
80	磁器	〃	－	緑	黄灰	0.46	〃	内外面釉		
81	?	〃	－	灰	灰	0.40	〃	?		
82	磁器	不明	－	白	白	0.37	〃	内外面釉		
83	石・剥片	33Aトレンチ	L－1	茶	茶	0.40	－			


1 (20)
2 (21)
3 (22)
4 (23)
5 (38)
6 (11)
7 (68)
8 (72)
9 (56)
10 (1)
11 (26)
12 (13)
13 (15)
14 (36)
15 (41)
16 (42)
17 (44)
0
10cm
19 (14)
20 (16)
21 (28)
18 (12)
22 (35)
23 (39)
24 (45)
25 (57)
26 (63)
0
10cm

第10図　出 土 遺 物

第Ⅳ章　総　　括

第１節　遺構・遺物について

今回の調査によって検出した遺構は溝が８条であるが，これらはいずれも条里区画想定線上にほぼ一致するものであり，特に第18及び第20Ｂトレンチ検出のそれは大型で中心的水路と考えられるものである。同様の例は，昭和52年度に実施した藤田地区内第25トレンチでも見られ地下条里区画の一面を示すものと考えられる。一方，その他の溝も各想定ライン上にあり設定したラインが条里区画に合致するものであるとの印象を強く持つことができた。しかし，その遺構としての性格上，年代決定は極めて困難である。特に時代を限定しうる資料の検出を見ることができず，結果としては年代不明とならざるを得ないのは残念である。とはいえ，付近に中期～後期古墳時代の群集墳，祭祀遺跡や集落跡があり開発は順調な歩みを遂げていたことを知ることができる。そして，古代の徳江廃寺跡の存在も当地の生産力の高さを示す傍証とすることができよう。

さて，出土遺物としては，土師器，須恵器，陶器，磁器，石片，石板，弾丸(?)などがあるが遺構に関連するものがほとんどなくいずれも第１～２層出土で磨滅の激しいものである。土師器を見ると主としてロクロ使用のものであるが磨滅が大で断定はしにくい。須恵器は外面タタキ，内面アテ道具痕のあるものが多いが，ロクロ目を残す壺状のものもある。陶器や磁器としては，鉢，擂鉢，甕，椀などがあるが，擂鉢にはクシ目（工具）間に空白部を持つ古手のものと目が密で整然とした新手のものとが存在している。全体としては釉薬の施されたものが多いが，最近県北地方でよく報告される乳白色釉（貫入あり）を有している資料もあり，その位置づけが問題点の一つである。特に本県においては，古い時期の相馬焼の解明（集収・検討）が急務のようである。

いずれにしてもこれらは少なくとも奈良時代から現代までの資料の混在であり，付近の条里水田がこの時間的流れの中で機能したことは理解できる。

トレンチによる調査という限定された方法によるために得られる情報も自ら限られるのは止むを得ないが，やはり時期決定のできる遺構を検出するように努めなければならないだろう。

第２節　遺跡について

当遺跡については，６次に亘る発掘調査を実施したわけであるが，その主たる遺構は溝と畦畔（水田）跡である。これによって地下条里遺構の存在をいくらか証明することができたようである。ただ，莫大な面積を対象とするために十分検討できない部分もあったが，これらについては地形学や文献史学の分野よりの助力を得ることができたことは幸いであった。

さて，森山地区の開発は森山古墳群の被葬者たち（7世紀末〜8世紀前半）によって大きく進展したと思われるが，それが方形地割（条里水田）という形をとったのはいつかという点については断定しにくい。森山古墳群以前（あるいは併行）に塚野目古墳群という一大古墳群の存在や下入ノ内遺跡・矢ノ目遺跡・反畑遺跡なども知られ，付近一帯の開発が急速に進展したことを想像させる。即ち農業生産力（≒耕地面積・人口）の着実な進展こそが，これら大古墳群や集落跡を支えたものであり，やはり森山古墳群の被葬者たちとそれに係わる人々（班田農民その他）によって森山条里は造成されたものと考えたい。その大きな生産力と生産関係の相乗作用とでもいうべきものが本条里水田を結果したのであろうか。

ところで，本県内の条里遺構は河川や海岸付近の低地に存在していたことが県内研究者の努力によって知られている。佐藤堅治郎氏は全県的な条里分布の紹介をされているし，鈴木貞夫氏は浜通り地方の条里研究を重ねられ，一方県北地方においては菊池利雄氏の研究や近年の木庭元晴氏の研究がある。また会津地方では高橋富雄氏が門田条里の紹介をされている。その発掘調査も大熊町熊川六丁目と西会津町尾野本で実施されている。これらの中で筆者自身が接することが出来た遺構について若干述べておくことにする。会津若松市門田町中野周辺の遺構については，2,500分の1地形図や空中写真[(註1)]に接する機会を得，また別に一ノ堰付近を若干踏査することができたが，みごとな方形地割の連続であり，灌漑水路としての一ノ堰も優れた作りである。ただ計測等はできなかったのでその具体的内容についてはわからない。会津（盆地）の農業生産力などを考える上で重要な課題を内包しており今後の研究の進展が待たれる。西会津町尾野本の遺構については1,000分の1地形図や空中写真・字限図に接することがあったが[(註2)]，東西・南北方向の大水路が観察できその周辺に一の坪，二の坪，三の坪の地名が残っている。地割はかなり乱れているがこの大水路を手懸りにして本遺構の内容吟味が成されるだろうという感想をもった。大熊町熊川六丁目の遺構については現地踏査の機会があり[(註3)]，これもみごとな方形地割であった。ただ規模が若干小さく，周辺地区の検討が今後の課題といえるのは報告者が述べている通りである。

以上，県内遺構のいくつかを紹介したが，現在知られている内で伊達西部条里遺構の規模は莫大である。これに相当するのは石城地方や会津盆地であろうかと思うが，これも前者同様その大判は失れてしまった。本県内条里（想定）遺構の復元的研究の進展が一層望まれる。

そして今後は，条里それ自体の検討もさることながら古墳時代遺跡及び古代地方官衙跡・集落跡研究と一体化した検討が必要であろうと思う。この観点（生産基盤）を欠いた論議にならないよう，総合的な研究を願うものである。以上当地区の発掘調査は本年度をもって終了した。長期に亘り御援助下さった関係機関や地元の多くの方々に感謝を申し上げ，また伊達西部地区の今後の発展を祈って本報告を終えたい。

（註）　1．会津若松市教育委員会　小滝利意氏の御配慮による。
　　2．西会津町公民館の御配慮による。
　　3．大熊町教育委員会の御配慮による。

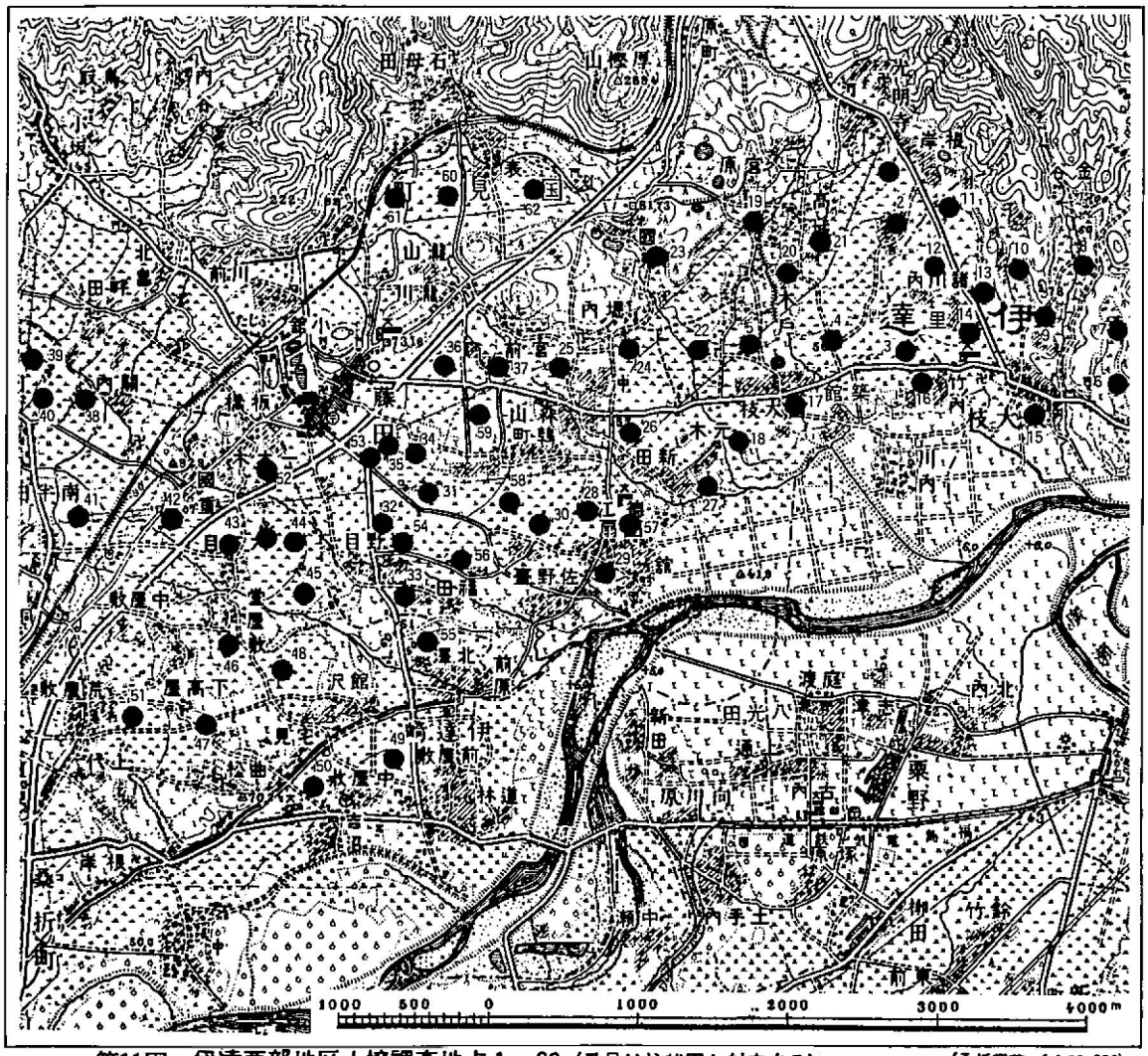
資　料

伊達西部地区土壌調査

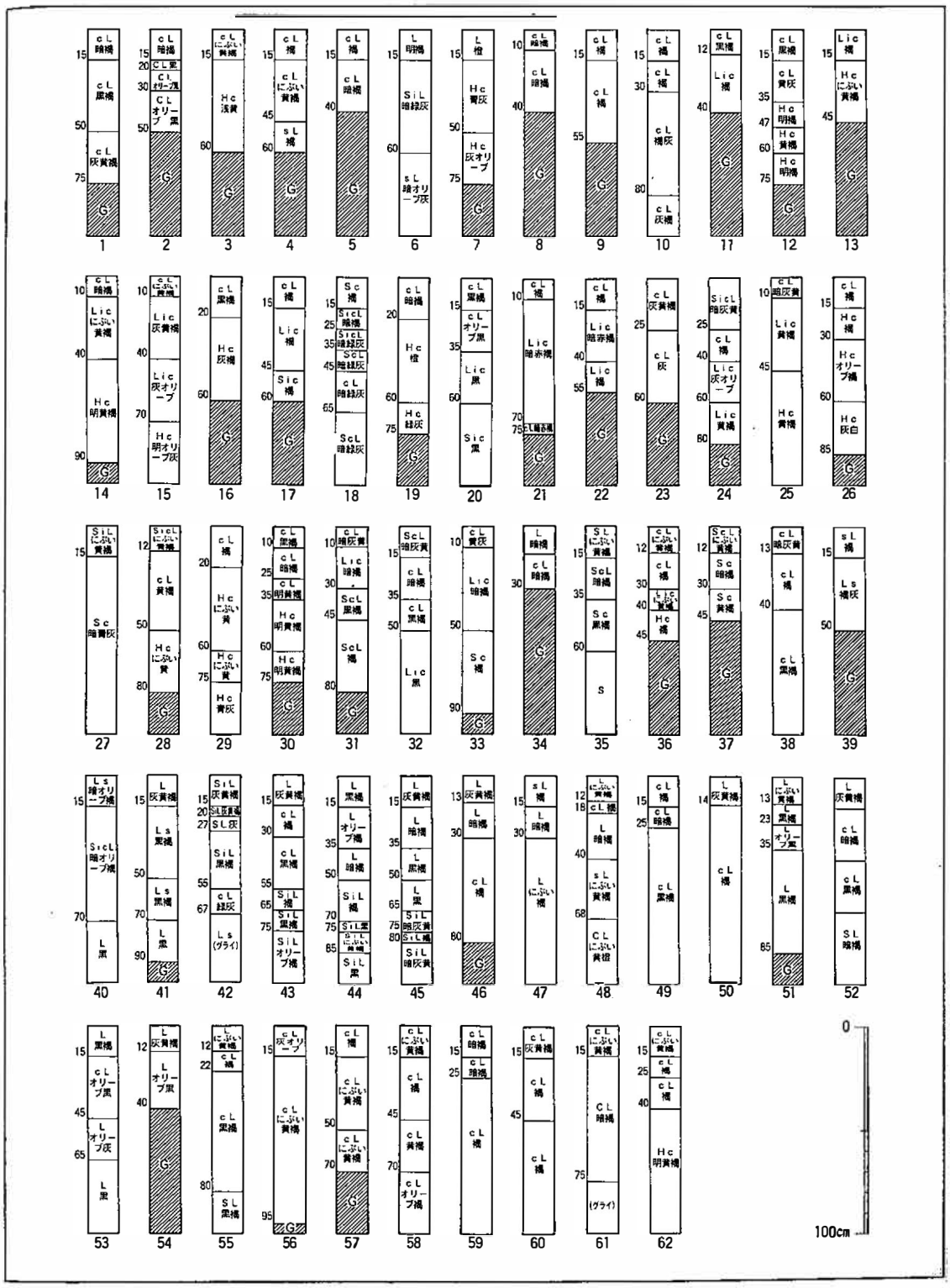
この調査は，昭和50年度以前に福島県農林計画課（当時）がその所属職員をもって実施したものであるが，当条里遺構研究に関する基礎資料として福島県教育庁文化課に提供（昭和50年３月11日）されたものである。

調査は，５*ha*に１地点の割合で，各点深度100cmまでの範囲で行い柱状図に表している。その地点及び柱状図は第11・12図の通りである。なお柱状図の略号の意は次の通りである。[38]

重埴土（Hc），砂質埴土（Sc），軽埴土（Lic），シルト質埴土（Sic），砂質埴壌土（ScL），埴壌土（cL），シルト質埴壌土（SicL），壌質砂土（Ls），砂壌土（SL），壌土（L），シルト質壌土（SiL），砂土（S），グライ土壌（G）。



第11図　伊達西部地区土壌調査地点１～62（番号は柱状図と対応する）　（桑折図葉　1：50,000）



第12図　伊達西部地区土壌調査柱状図（1～62地点）

参考

森　山　条　里

森山条里遺構は，森山丘稜（上野原）の南に広がる瀧川と滑川によって画された平地上に位置し，古来中央部の条里遺構地は本郷と呼ばれ，西部の神明部落は下郷と呼ばれた。

この条里の灌漑は瀧川と滑川及びこの村の北東部西大窪村（大木戸村）との境にある涌水によってまかなわれてきた。瀧川の用水は石母田，藤田村との境界付近から揚水する下郷（神明）堰によって，主としてこの村西部の条里から除かれた水田とその東部に広がる条里水田の一部を潤している。

滑川は上流地の石母田東部の条里を潤した用水が流れてきて，これを石戸内で揚水した本郷堰によって条里水田に灌漑されている。涌水からの豊富な湧水は，元禄の「森山村明細帳」によれば，昼二十日と晩三十日は森山村の水田に，昼十日は西大窪村の水田に灌漑され，森山村に優先的な利用が認められていた。

現在この涌水からの灌漑面積は滑川左岸の水田五町歩ほどであるが，西根堰開発後も用水が不足する時は，滑川を樋越して本郷の水田溝渠へ分注されて三十町歩の水田を潤したと言われる。

森山条里の坪数は元木付近の分布が詳らかでないが，約30坪に達し北部の遺構はよく保存されている。森山村の農業開発は弥生時代，涌水や滑川沿いの低湿地に始まり，次第に台地上に及んでいったものとみられる。森山条里が広がる平地を見おろす上野丘陵南斜面には森山古墳群があり，この古墳の被葬者たちも条里施行前における森山の水田開発に大きな役割をはたした豪族であろう。

中世の森山に伊達氏に従って森山館に入部した富塚氏は，深い広大な館濠の水を軍事的な防備に用いるとともに，灌漑水の不足する時は館前に広がる所領である条里遺構水田の用水にあてられていたと考えられる。

森山条里の中央部付近の八斗蒔は，中世頃には灌漑水がここ迄達しなくなり，直播田（蒔田）となった名残を伝える地名であろう。条里と関連する地名は見あたらないが，田中内，石戸内や元木は中世の在家地名である。近世の初め米沢藩によって摺上川から揚水する西根上堰の開発は森山村の灌漑水の不足から蒔田や荒廃した条里遺構に水田が復活し，さらに瀧川から新田堰が掘られて，条里遺構の南部に森山新田が開発されるに至った。

※本論は，菊池利雄氏著「伊達西部条里遺構に関する地名・古地図等の調査―灌漑水よりみた伊達郡西根の条里と開発」『福島県文化財調査報告書』第82集（昭和55年３月）よりの抜粋である。なお，本論中の記載地名の位置等については，上記文献及び本書第Ⅲ章中の第６図を参照されたい。(編者注記)

付　章　I　　矢ノ目遺跡出土の石製模造品(補)

矢ノ目遺跡は，福島県伊達郡国見町大字塚野目字矢ノ目に所在した古墳時代の祭祀跡である。その大方については「矢ノ目遺跡出土遺物」(福島県文化財調査報告書　第82集所収　昭和55年3月）の中で紹介したが，紙数の関係で掲載できなかった図面があったのでここに集録することにした。資料を分散的に提示することは私どもの本意ではないが種々の事情があり止むを得ないことと思っている。御容謝を願いたい。

さて，ここに示した表はすでに発表ずみのものであるが，図を提示するに当り再録するものである。またこの図をもって当遺跡の資料はほぼ出そろったことになるが若干未提示のものもある。これらについては福島県教育庁文化課が管理しているので活用されたい。

なお，掲載図の作成はほぼ昨年度で終了していたものであり，整理には文化課の担当職員の他に，現在(財)福島県文化センターに勤務する，高橋信一，橋本博幸，寺島文隆の各氏及び大月弘美女史らの手を煩わしていることを明記する。

第5表　石製模造品一覧表　（剣　形）

No	遺物No	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	穿孔	孔径(cm)	図　No	備　　考
1	2	6.92	1.31	0.94	23.9	1	0.15	13－1	
2	3	7.30	2.68	0.65	16.5	1	0.18	2	
3	4	6.48	2.65	0.99	20.9	1	0.40	3	
4	5	7.50	2.20	0.89	17.9	1	0.18	4	
5	6	6.08	2.57	0.77	14.1	1	0.44	5	
6	7	6.36	2.96	0.67	16.6	1	孔なし	6	
7	8	4.11	1.89	0.63	4.8	1	〃	7	
8	9	7.44	1.91	0.75	14.9	1	0.18	8	
9	11	4.65	2.19	0.89	9.6	1	0.24	9	
10	12	3.41	1.61	0.56	3.4	1	0.22	10	
11	13	3.59	1.18	0.47	2.3	1	0.16 0.14	11	
12	14	2.68	1.23	0.51	1.75	1	0.16	12	
13	15	4.29	1.71	0.59	5.4	1	0.15	13	
14	16	5.31	2.29	0.53	7.4	1	0.20	14	
15	17	3.64	1.54	0.64	4.7	1	0.18	15	
16	18	3.56	2.02	0.63	7.5	1	0.16	16	両面共に平
17	19	4.80	2.77	0.74	13.4	1	0.18	17	
18	20	3.54	1.35	0.49	2.5	1	0.4 0.12	18	
19	21	3.95	2.06	0.66	6.4	1	0.21	19	
20	22	3.64	1.73	0.55	3.8	1	0.19	20	
21	23	3.88	1.84	0.59	5.1	1	0.3	21	両面に鎬
22	24	3.12	1.70	0.44	3.1	不明	孔なし	22	
23	25	4.36	1.94	0.51	5.3	1	0.25	23	
24	26	4.76	2.11	0.65	6.7	1	0.15	24	
25	27	8.88	3.32	0.85	28.2	1	0.2	25	
26	28	3.83	1.80	0.63	4.9	1	0.89 0.16	26	

No	遺物No	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	穿孔	孔径(cm)	図 No	備　　考
27	29	4.92	2.42	0.78	11.1	1	0.17	13—27	両面に鎬
28	30	5.87	2.98	0.86	17.4	1	0.17	28	
29	34	5.52	2.05	0.63	8.7	1	0.20	29	
30	35	4.45	1.85	0.56	5.3	1	0.19	30	
31	36	5.22	2.34	0.78	11.9	1	0.19	31	
32	37	4.44	1.45	0.52	2.9	1	0.09	32	
33	38	4.65	2.64	1.02	14.7	1	0.225	33	
34	39	5.88	2.05	0.81	12.4	1	0.35 0.24	34	
35	40	4.82	2.34	0.77	10.0	1	0.16	35	
36	41	5.38	1.94	0.76	10.4	1	0.18	36	
37	42	4.64	2.09	0.73	9.3	1	0.18	37	
38	43	4.72	2.29	0.73	8.6	1	0.16	38	
39	44	5.58	1.72	0.69	7.5	1	0.12	39	
40	45	3.84	1.68	0.58	4.5	1	0.18	14— 1	
41	46	3.54	1.43	0.69	3.1	1	0.225	2	両面に鎬
42	47	4.32	1.97	1.61	6.1	1	0.20	3	
43	48	4.19	1.87	0.74	6.9	1	0.25	4	
44	76	7.04	2.29	1.12	25.6	1	0.20	5	両面に鎬
45	77	4.13	1.88	0.65	5.8	1	0.24	6	
46	78	4.31	1.94	0.59	6.3	1	0.22	7	
47	79	5.21	2.28	0.87	11.9	1	0.18	8	
48	80	4.17	1.75	0.53	5.4	1	0.20	9	
49	81	4.31	1.63	0.55	4.2	1	0.19	10	
50	82	3.49	1.36	0.41	2.4	1	0.19	11	
51	83	3.83	1.80	0.45	6.4	1	0.25	12	
52	84	5.61	1.80	0.66	6.6	1	0.28	13	
53	85	3.41	1.79	0.73	5.1	1	0.25	14	
54	86	4.12	1.65	0.59	4.9	1	0.30	15	両面に鎬
55	87	3.60	2.34	1.01	11.4	1	0.22 0.15	16	同上
56	88	5.39	2.16	0.55	7.2	1	0.18	17	
57	89	4.89	2.01	0.73	8.3	1	0.21	18	
58	90	4.73	2.71	0.52	5.8	1	0.19	19	
59	91	5.13	2.54	0.87	14.0	1	0.18	20	
60	92	4.27	1.84	0.59	6.0	1	0.20	21	
61	93	4.56	2.08	0.54	7.2	1	0.20	22	
62	94	3.64	1.78	0.59	4.3	1	0.25	23	
63	95	3.86	1.32	0.65	4.5	1	0.23	24	
64	96	3.53	2.00	0.34	3.8	1	0.25	25	両面共に平
65	97	3.33	1.84	0.62	4.7	1	0.17	26	
66	98	3.24	1.66	0.56	3.5	1	0.14	27	
67	99	3.37	1.51	0.48	2.8	1	0.20	28	
68	198	7.35	3.31	1.02	25.4	1	0.15	29	No65土器内
69	202	4.51	2.00	0.67	7.2	1	0.20	30	No55土器内
70	203	4.25	1.75	0.70	5.9	1	0.16	31	同　上
71	204	4.36	1.86	0.90	9.2	1	0.20	32	同　上
72	205	4.37	2.20	0.78	8.6	1	0.18	33	同　上
73	206	4.99	2.01	0.59	6.6	1	0.15	34	同　上
74	207	4.32	1.50	0.44	3.0	不明	無	35	同　上
75	208	5.86	1.72	0.79	8.8	1	0.20	36	同　上

No	遺物No	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	穿孔	孔径(cm)	図 No	備　　考
76	209	4.19	2.03	0.64	6.2	1	0.16	14—37	No55土器内
77	213	5.39	1.99	0.76	10.7	1	0.22	38	No59土器内
78	214	6.05	2.29	0.93	16.1	1	0.20	39	No62土器内
79	215	5.04	1.61	0.52	5.0	1	0.20	40	同　上
80	216	4.57	2.06	0.74	6.4	無	無	41	同　上
81	217	5.32	1.88	0.77	8.5	1	0.30	42	同　上
82	221	3.55	1.83	0.58	5.0	1	無	43	No52土器内
83	222	6.46	2.41	0.83	17.0	1	0.17	44	No1●土器内
84	223	6.09	2.34	0.77	11.9	1	0.18	15—1	同　上
85	224	3.51	2.33	0.64	7.2	1	0.20	2	同　上
86	226	3.46	1.47	0.55	2.9	1	0.15	3	No68土器内
87	227	4.68	1.91	0.50	4.8	1	0.40 0.15	4	No 7 土器内
88	228	6.56	1.98	0.86	13.6	1	0.18	5	同　上
89	230	4.58	1.66	0.58	5.1	1	0.165	6	同　上
90	231	3.13	1.96	0.62	4.2	1	●.40 0.25	7	同　上
91	235	3.58	1.67	0.52	3.6	1	0.2	8	No34土器内
92	236	3.69	1.78	0.39	4.4	1	0.15	9	両面共に平.No34土器内
93	239	5.82	2.06	0.66	9.5	1	0.15	10	No21土器内
94	240	3.62	1.48	0.54	3.8	1	0.16	11	同　上
95	241	4.42	1.52	0.55	4.7	1	0.25	12	同　上
96	243	5.92	3.55	1.17	25.8	1	0.17	13	同　上
97	246	6.78	2.64	0.18	18.7	1	0.46	14	No22土器内
98	247	5.73	2.33	0.71	10.6	1	0.20	15	No 6 土器内
99	249	4.18	2.18	0.63	6.8	無	無	16	No25土器内
100	250	5.34	2.22	0.68	9.9	1	0.17	17	同　上
101	252	3.12	1.72	0.67	3.8	1	0.30	18	両面に錆
102	253	3.73	2.21	0.63	5.7	1	0.15	19	No54土器内
103	254	3.51	1.61	0.54	3.8	1	0.22	20	No16土器内
104	255	2.65	1.94	0.62	4.0	1	0.40 0.16	21	No51土器内
105	259	4.16	1.63	0.45	3.8	1	0.16	22	
106	261	4.51	1.80	0.41	5.1	1	0.16	23	
107	262	3.70	1.68	0.71	5.4	無	無	24	
108	263	3.54	2.04	0.51	7.3	1	0.16	25	
109	267	5.92	2.57	0.88	14.7	1	0.25	26	
110	271	7.61	2.50	0.84	20.1	1	0.24	27	両面に錆.No38土器内
111	272	4.38	2.28	0.63	7.3	1	0.15	28	No35土器内
112	273	3.57	1.60	0.42	2.8	1	0.18	29	No186土器内
113	274	5.52	2.36	0.71	10.4	1	0.15	30	No 2 土器内
114	277	3.36	1.45	0.52	3.0	不明	無	31	同　上
115	278	2.40	1.47	0.38	2.0	1	0.18	32	同　上
116	280	2.96	1.73	0.55	2.9	不明	無	33	

（有孔円板）

No	遺物No	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	穿孔	孔径(cm)	図 No	備　　考
1	49	3.15	3.12	0.45	7.8	1	0.16	15—34	
2	101	2.80	2.78	0.46	6.6	1	0.16	35	
3	102	3.23	3.33	0.63	13.7	1	0.16	42	
4	103	3.34	3.09	0.62	9.9	無	無	36	

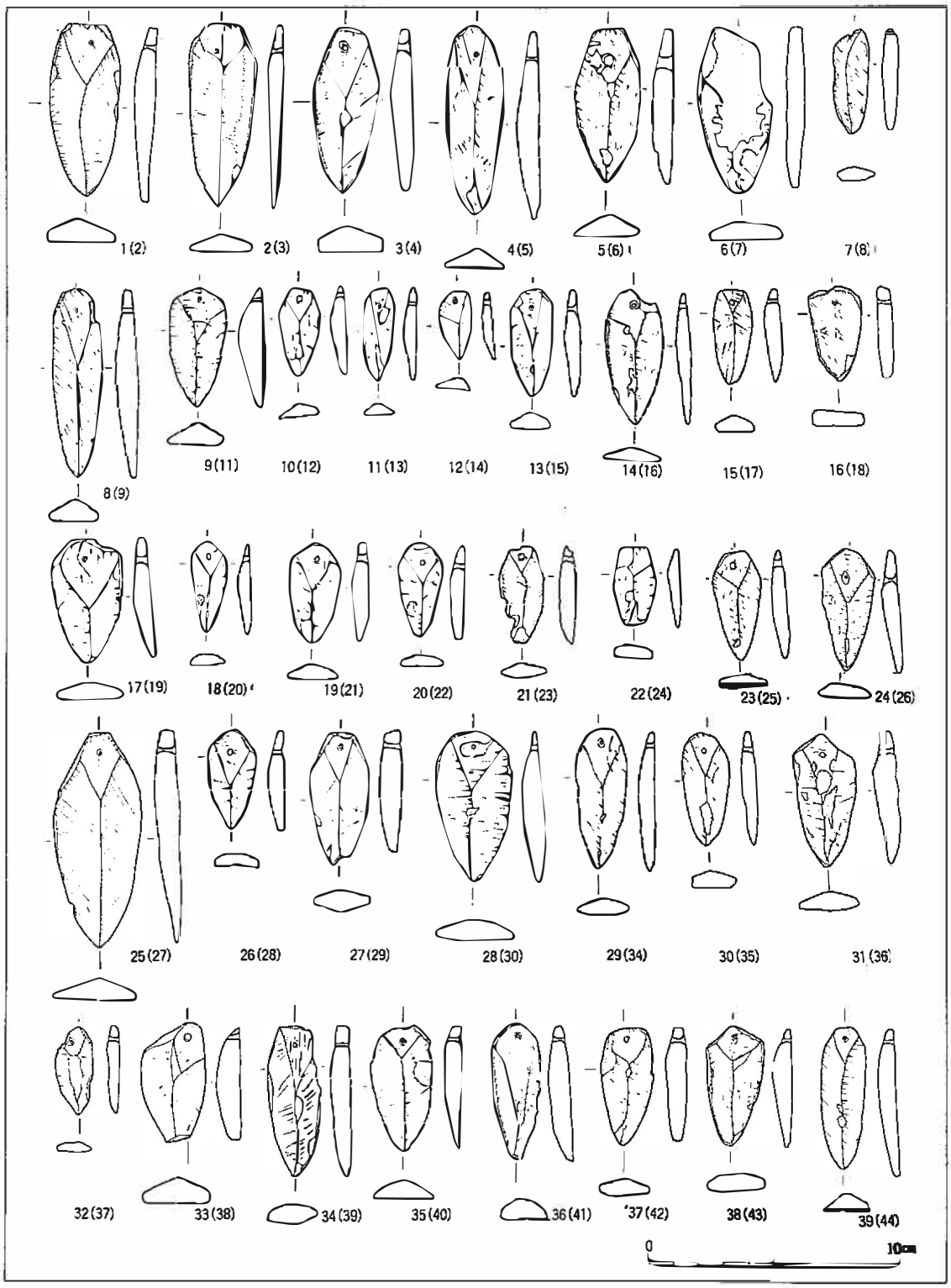
No	遺物No	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	穿孔	孔径(cm)	図 No	備　　考
5	104	2.80	2.88	0.44	5.1	1	0.16	15—37	
6	105	2.40	2.44	0.41	4.4	1	0.18	38	
7	106	2.95	3.05	0.29	2.9	1	0.16	39	
8	107	2.02	2.31	0.44	3.6	無	無	40	
9	108	2.51	2.55	0.38	4.1	無	無	41	
10	132	2.01	1.97	0.45	2.8	1	0.18	43	
11	133	1.57	2.16	0.38	1.8	1	0.18	44	
12	134	2.81	2.90	0.46	7.0	1	0.18	45	
13	135	2.01	2.11	0.27	2.1	1	0.15	46	
14	150	3.48	3.67	0.38	8.5	1	0.42	47	
15	151	1.87	1.92	0.34	2.1	1	0.21	48	
16	154	2.31	2.20	0.32	3.0	1	0.20	49	
17	161	2.47	2.61	0.46	5.5	1	0.15	50	
18	184	2.55	2.82	0.41	5.0	1	0.48 0.40	51	No 8 土器内
19	186	1.72	1.80	0.36	1.9	1	0.21	16—1	No57土器内
20	188	2.55	3.01	0.39	5.3	1	0.44	2	No29土器内
21	189	3.06	3.23	0.45	8.4	1	0.20	3	同　上
22	199	2.63	2.94	0.50	6.8	無	無	4	No65土器内
23	200	2.45	2.43	0.49	4.8	1	0.41	5	同　上
24	201	1.17	2.43	0.41	1.9	不明	無	6	同　上
25	210	2.59	2.63	0.34	4.1	1	0.25	7	No55土器内
26	211	2.89	2.99	0.59	9.1	1	0.21	8	同　上
27	212	2.95	2.94	0.62	8.0	1	0.21	9	同　上
28	218	3.62	3.60	0.44	10.7	1	0.16	10	No62土器内
29	232	2.80	2.48	0.36	4.7	1	0.16	11	No 7 土器内
30	233	2.47	2.50	0.44	4.7	1	0.20	12	No43土器内
31	237	2.51	2.60	0.38	4.3	1	0.16	13	No21土器内
32	242	4.24	4.16	0.49	15.0	1	0.21	14	同　上
33	244	2.72	2.61	0.38	4.6	1	0.19	15	
34	245	2.78	2.83	0.46	5.9	1	0.18	16	No22土器内
35	248	2.95	2.93	0.37	6.2	1	0.15	17	No 6 土器内
36	251	2.50	1.86	0.34	2.4	1	0.20	18	No25土器内
37	256	2.24	2.61	0.36	3.8	1	0.22	19	No53土器内
38	257	2.60	2.79	0.38	5.1	1	0.18	20	
39	258	2.78	2.88	0.57	7.1	1	0.24	21	No17土器内
40	260	2.75	2.59	0.44	5.9	1	0.14	22	
41	264	2.31	2.43	0.34	3.3	1	0.18	23	
42	265	3.16	3.29	0.46	8.0	1	0.16	24	
43	266	3.37	3.22	0.51	9.8	1	0.42 0.18	25	
44	269	1.68	2.00	0.34	1.9	1	0.18	26	
45	270	2.48	2.58	0.42	4.9	1	0.19	27	No38土器内
46	275	2.05	2.34	0.59	5.1	1	0.18	28	No 2 土器内
47	276	1.99	2.17	0.30	2.4	1	0.18	29	同　上
48	279	1.48	3.10	0.37	2.7	不明	無	30	No35土器内
49	282	1.48	2.12	0.45	2.5	1	0.18	31	

（臼　玉）

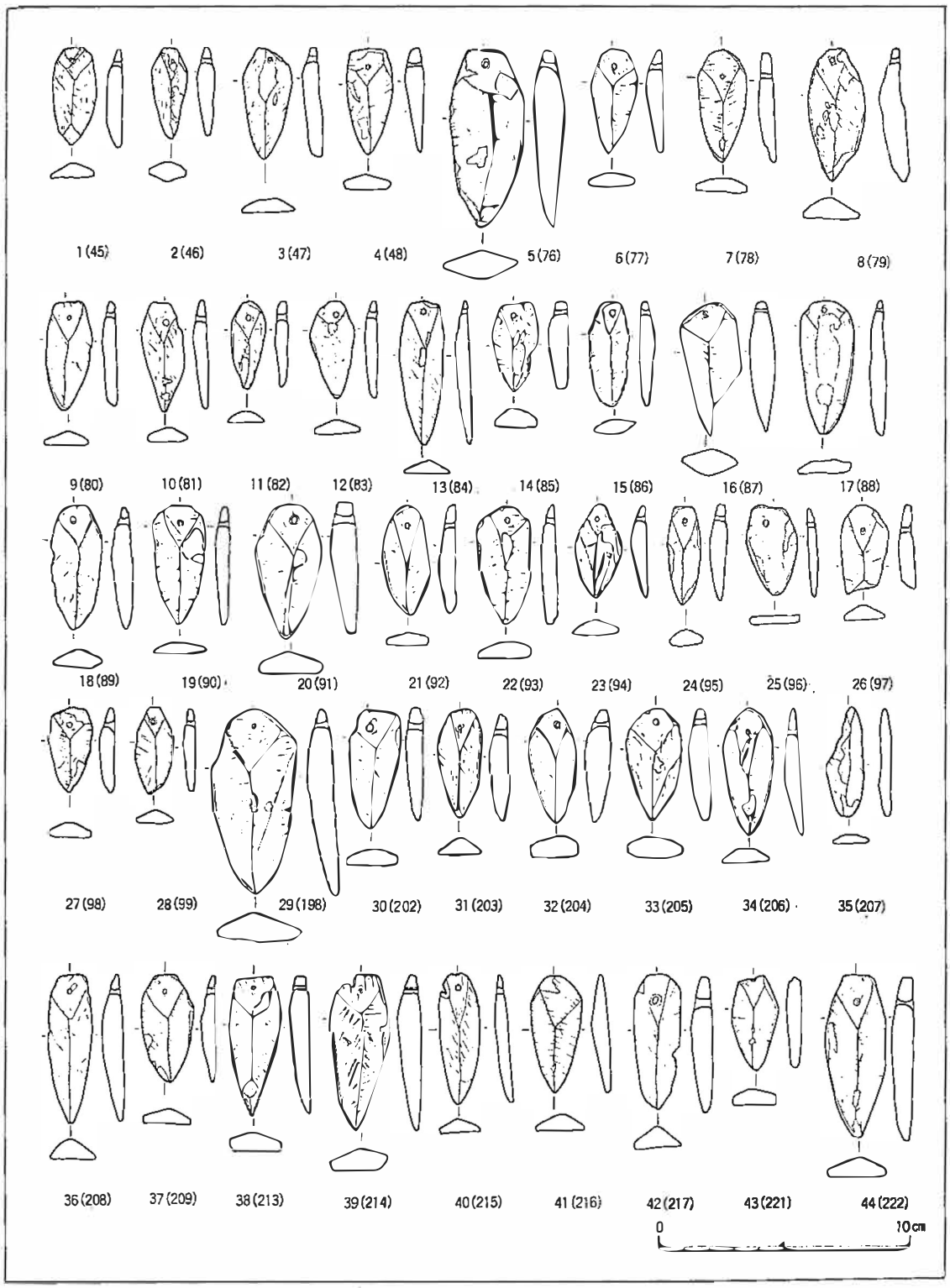
No	遺物No	長径(cm)	幅　(cm)	重量(g)	孔径(cm)	図　No	備　　考
1	66	0.28	0.41	0.1以下	0.16	17—39	No40土器内

（臼　玉）　〈未製品〉

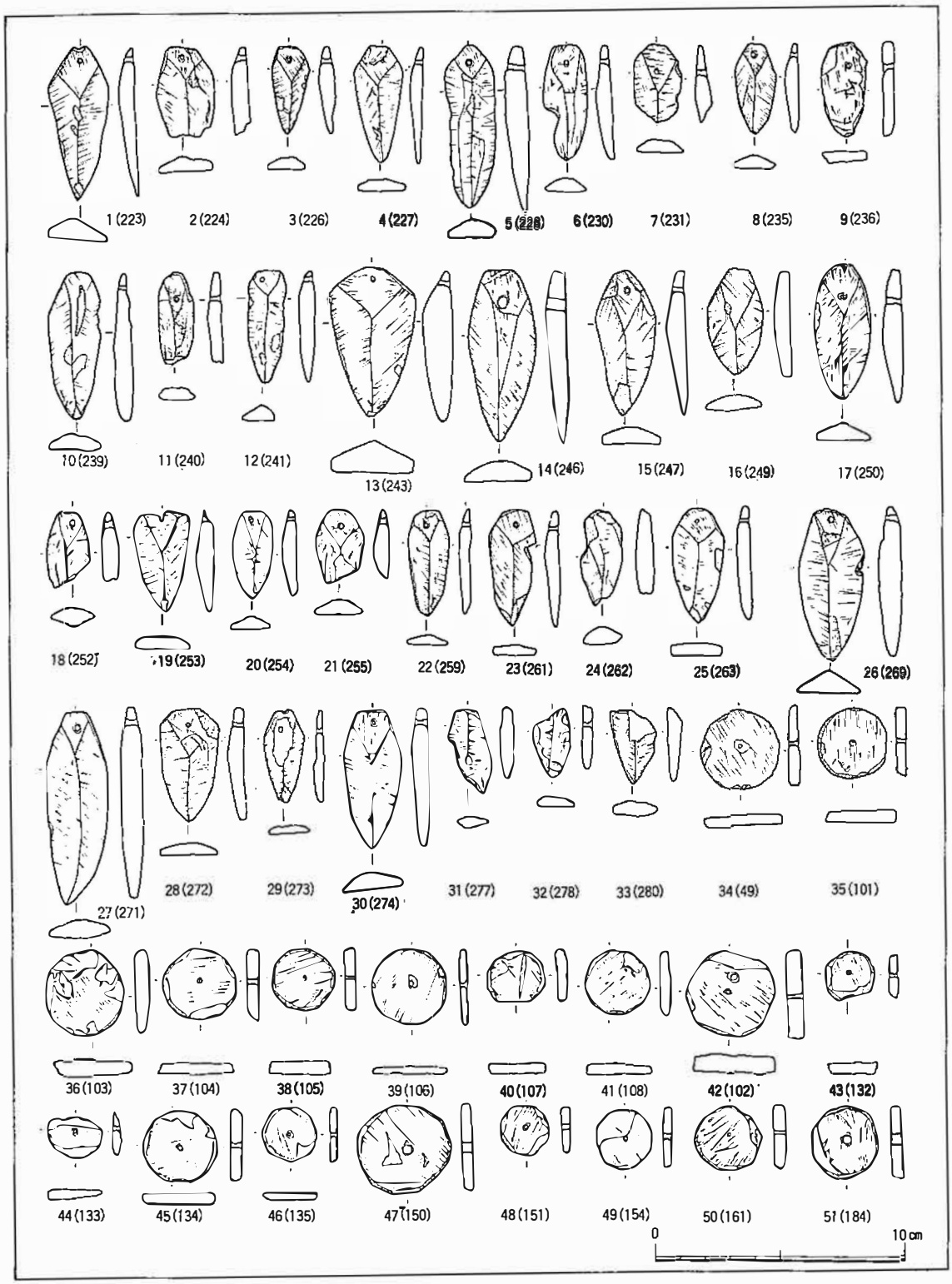
No	遺物No	長径(cm)	幅　(cm)	重量(g)	孔径(cm)	図　No	備　　考
1	1	0.12	0.92	0.40	0.16	17—1	
2	2	0.97	0.68	0.25	0.18	2	
3	3	1.00	0.6	0.30	0.16	3	
4	4	0.85	0.51	0.20	0.16	4	
5	5	0.8	0.52	0.10	0.15	5	
6	6	0.79	0.57	0.20	0.16	6	
7	7	0.85	0.51	0.15	0.15	7	
8	8	1.00	0.57	0.20	0.20	8	
9	9	1.00	1.00	0.60	なし	9	
10	10	0.89	1.11	0.40	なし	10	
11	11	0.82	1.08	0.40	なし	11	
12	12	1.00	0.82	0.40	なし	12	
13	13	0.90	1.02	0.40	なし	13	
14	14	0.87	0.98	0.50	なし	14	
15	15	0.98	0.78	0.35	なし	15	
16	16	0.9	1.05	0.40	なし	16	
17	17	0.97	0.81	0.35	なし	17	
18	18	0.97	0.90	0.55	なし	18	
19	19	0.86	1.07	0.45	なし	19	
20	20	0.90	1.00	0.40	なし	20	
21	21	0.87	0.90	0.40	なし	21	
22	22	0.95	0.90	0.50	なし	22	
23	23	0.87	0.90	0.45	なし	23	
24	25	0.91	0.91	0.40	なし	25	
25	26	0.95	0.92	0.35	なし	26	
26	27	1.01	1.00	0.50	なし	27	
27	28	0.98	0.90	0.40	なし	28	
28	29	0.71	1.01	0.25	なし	29	
29	30	1.10	1.08	0.45	なし	30	
30	31	1.10	1.10	0.50	なし	31	
31	32	0.90	0.90	0.35	なし	32	
32	33	0.90	1.00	0.50	なし	33	
33	34	0.78	0.90	0.40	なし	34	
34	37	1.00	0.88	0.40	なし	36	
35	38	0.74	1.00	0.30	なし	37	
36	39	1.00	0.88	0.40	なし	38	
37	24	1.02	1.00	0.40	なし	24	
38	36	1.05	0.93	0.50	なし	35	



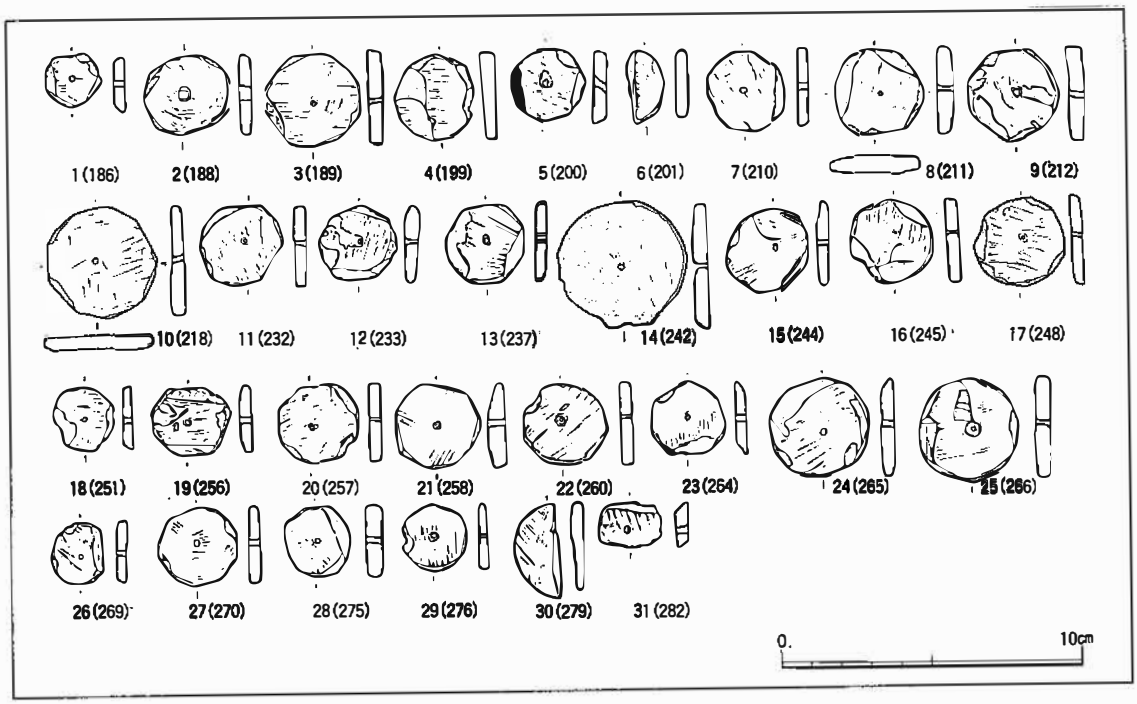
第13図　矢ノ目遺跡の石製模造品　(1)



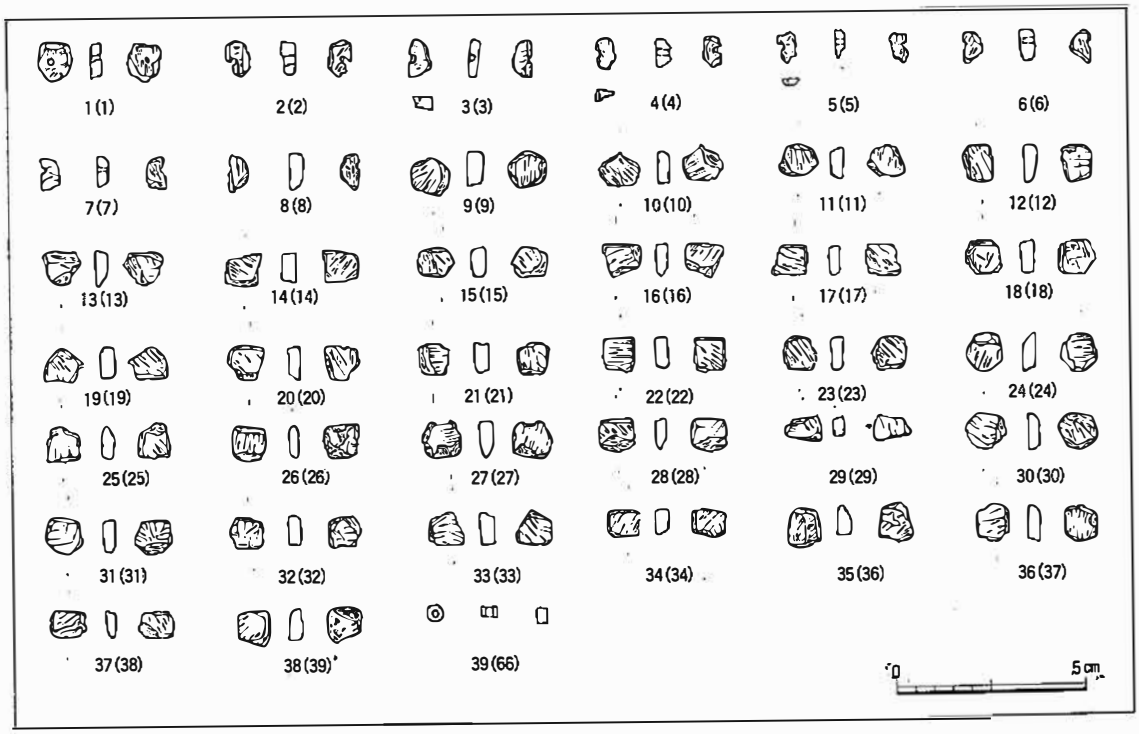
第14図　矢ノ目遺跡の石製模造品　(2)



第15図　矢ノ目遺跡の石製模造品　(3)



第16図　矢ノ目遺跡の石製模造品　(4)



第17図　矢ノ目遺跡の石製模造品　(5)

付　　録　　Ⅱ

1．下入ノ内遺跡出土の須恵器片（補）

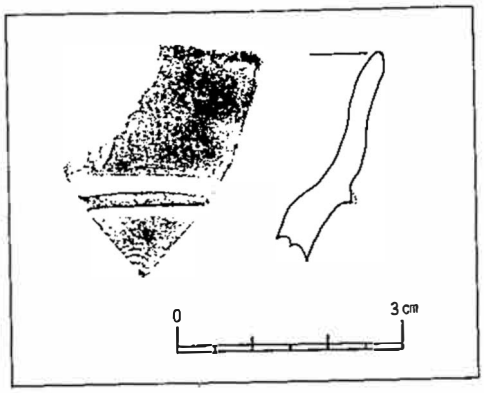
当遺跡については，福島県文化財調査報告書　第82集（伊達西部地区遺跡発掘調査報告）の中で報告したが，次の資料が欠落していたのでここに補稿をもって紹介する。観察は主に石本弘氏。

須恵器

二重堀跡発掘調査に係る第30トレンチ第４層焼土より出土（1979年11月６日）した資料である。

瓶の破片と見られ，現在器高約2.9cm，厚さ0.5cm～0.25cmを測る口縁部資料である。内外面ともにロクロナデが観察され，色調は外面黒灰色，内面黄褐色（降灰付着）を呈する。口縁部下に隆線（先端部欠損）があり上下にロクロナデが見られる。またこの下に波状文が施文されており４本まで確認できる。断面は暗灰色を呈し，胎土は緻密で混入物もなく，焼成も良好である(図版Ⅵ－22)。

尚，先に報告した須恵器瓶（胴部片）とはその器厚などから別個体と考えたい。



第18図　下入ノ内遺跡の須恵器片

2．国見町石母田及び西大枝地区出土遺物

(1)　石母田字割田14番地出土遺物　（第19図１・２）

この資料は，上記地点より採集されたもので，佐藤喜藤次氏保管のものである。

太形蛤刃石斧　（第19図１）

長さ20.6cm，幅7.7cm，厚さ５cm，重さ1.2kgで，表面は黒色に近い。下半部（刃部）付近は良く磨かれており，製作上の痕跡と考えられる細かなスリットが多く観察できる。また刃先は両刃であるが，使用によると思われる剝離痕も見られる。一方，上半部には自然に近い面を残すが，中央部付近に楕円形状に磨滅痕があり柄を支えた部分かと想像される。断面形はほぼ楕円である。

須恵器　壺　（第19図２）

台付壺の底部と思われる資料で，底（台）径9.05cmを測る。ロクロ成形で内外面にロクロ目が見られ，胎土密，焼成良好である。色は内外面とも灰褐色を呈し一部に黒い斑点が観察できる。

以上の資料の他に土師器片なども採集されている。

(2)　西大枝金谷付近出土遺物　（第19図３～５）

この資料は，上記地点(略号KYA)より採集されたもので，佐藤豊太氏保管のものの一部である。

石　匕　（第19図３）

長さ8.5cm，幅3.6cm，厚さ1.4cm，重さ40.7ｇで，石質は珪質頁岩（新第三紀中新世中期）である。表裏面ともによく剥離作業が成され刃部を鋭利に仕上げている。石核よりの分離時いわば第１次的剥離面が表に５，裏に１観察できる。

陶　器　高台付椀　（第19図４）

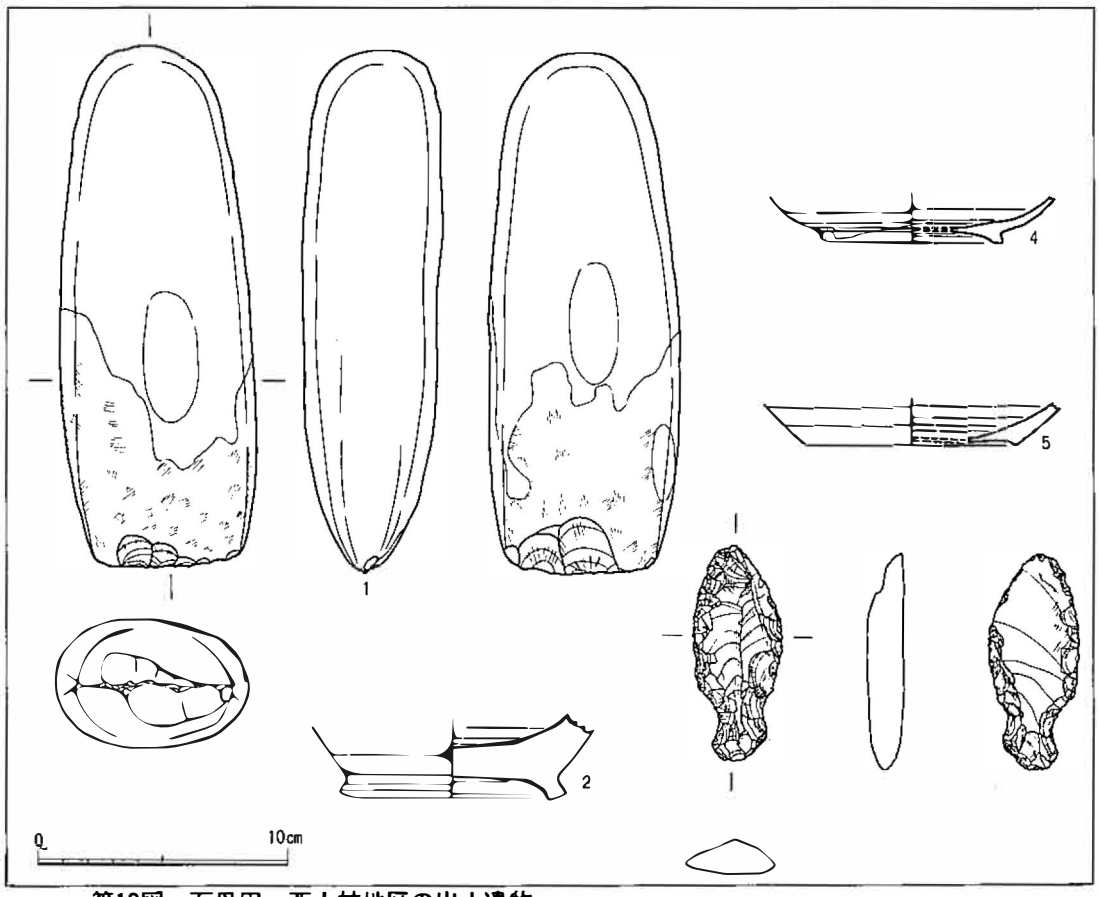
底（台）径7.2cmを測る下半部の資料であり，胎土密，焼成良好である。色は明灰色（内），灰緑色（外）を呈し，外面の高台以外には緑色釉薬が施されている。成形・調整はいずれもロクロが使用されよくロクロ目が観察できる。

陶　器　杯　（第19図５）

底径8.4cmで若干上げ底である。胎土密，焼成良好で色は内外面ともに明灰色を呈する。ロクロ成形で体・底部ともに外面は回転ヘラケズリ，内面はロクロ目が観察できる。

以上の他に，縄文時代の土器（中期他）や陶器（甕片他）なども採集されている。

なお付章Ⅱ－２の資料は菊池利雄氏の中立ちによってここに紹介した。



第19図　石母田・西大枝地区の出土遺物

〈伊達西部地区遺跡発掘調査関係文献〉

(1) 福島県教育委員会（1977）伊達西部条里遺構発掘調査概報 Ⅰ 〈59〉

(2) 〃 （1978） 〃 Ⅱ 〈64〉

(3) 〃 （1979） 〃 Ⅲ 〈70〉

(4) 〃 （1980）伊達西部地区遺跡発掘調査報告（Ⅳ） 〈82〉

(5) 〃 （1977ＭＳ）伊達西部条里制遺構―昭和52年度第１次調査中間報告資料―（現地説明）

(6) 〃 （1977ＭＳ）伊達西部条里制遺構―昭和52年度発掘調査概要No２―（現地説明）

(7) 〃 （1978ＭＳ）伊達西部―石母田地区―における条里遺構―昭和53年度発掘調査概要１―

(8) 〃 （1978ＭＳ）伊達西部―谷地周辺―における条里遺構―昭和53年度発掘調査概要２―

(9) 〃 （1979ＭＳ）奥州藤原氏阿津賀志山防塁　二重堀（見学資料）

(10) 〃 （1979ＭＳ）下入ノ内遺跡（説明資料）

(11) 〃 （1979ＭＳ）現地説明会資料　金谷館跡

(12) 〃 （1980ＭＳ）伊達西部条里遺構Ⅵ―森山条里の発掘調査―（現地説明資料）

(13) 中村　嘉男（1976ＭＳ）伊達郡国見町徳江地区微地形

(14) 中村　嘉男（1977ＭＳ）伊達西部条里制遺構内の微地形調査―伊達西部塚野目地区の微地形―

(15) 木庭　元晴（1977ＭＳ）伊達西部条里遺構発掘調査に関する微地形調査―藤田・北半田・谷地六丁目地区―

(16) 木庭　元晴（1978ＭＳ）伊達西部条里遺構発掘調査に関する微地形調査―石母田・谷地・上郡・下郡・伊達崎地区―

(17) 菊池　利雄（1978ＭＳ）伊達西部条里遺構発掘調査に関する地名・古地図等調査―石母田・谷地・上郡・下郡・伊達崎地区―

(18) 木庭　元晴（1980ａ）　伊達西部条里遺構と地形　伊達西部地区遺跡発掘調査報告　〈82〉

(19) 菊池　利雄（1980）　伊達西部条里遺構発掘調査に関する地名・古地図等調査―灌漑水よりみた伊達郡西根の条里と開発―　伊達西部地区遺跡発掘調査報告　〈82〉

(20) 菅原　文也（1980）　福島県の祭祀遺跡　伊達西部地区遺跡発掘調査報告　〈82〉

※以上の他に，日本考古学年報（日本考古学協会刊），福島県考古学年報（福島県考古学会刊）にも記載されている。なお〈　〉内は，福島県文化財調査報告書の番号である。

〈参　考　文　献〉

(21) 佐藤堅治郎（1964）福島県の条里制　福島県史　第６巻

(22) 高橋　富雄（1967）大化改新と開けゆく会津　会津若松史　第１巻

(23) 落合　重信（1967）条里制

(24) 弥永　貞三（1967）条里制の諸問題　日本の考古学Ⅶ
(25) 足利　健亮（1967）日本一古代　歴史地理学
(26) 鈴木　貞夫（1968）いわき市における条里制遺構の分布　地方史研究発表大会（要旨）
(27) 渡辺　久雄（1968）条里制の研究一歴史地理学的考察一
(28) 寶月圭吾他（1968）地下に発見された更埴市条里遺構の研究
(29) 佐藤堅治郎（1969）陸奥国の成立と郡郷　福島県史　第１巻
(30) 鈴木　貞夫（1970）いわき市の条里制遺構復元について　いわき地方史研究　第12号
(31) 大塚　一二（1970）今新田の条里制遺構　いわき地方史研究　第８号
(32) 佐藤堅治郎（1970）条里制と須恵器工人群　福島市史　第１巻
(33) 佐藤堅治郎（1972）福島県における条里制の諸問題　第14回福島県考古学大会資料
(34) 梅宮　茂，小林清治他（1973）国見町史　第２巻
(35) 鈴木　貞夫（1975）いわき市条里遺構の分布　福島地理論集　第18号
(36) 玉口時雄他（1975）千葉県館山市条里遺構調査報告書
(37) 菊池　利雄（1977）条里とむら　国見町史　第１巻　及び氏の講演会資料など
(36) 国見町（1977）国見町史　第１巻
(39) 中村　嘉男（1977）国見町の地形　国見町史　第１巻
(40) 山根一郎他（1978）図説日本の土壌
(41) 鈴木實夫・日下部善己（1979ＭＳ）条里遺構に関する若干の覚書一その考古学的成果一
(42) 菅原文也・高橋信一他（1980）熊川六丁目条里遺構発掘調査報告　大熊町文化財調査報告　第１集
(43) 山崎　四郎（1980）尾野本条里遺構　福島県考古学年報９
(44) 木庭　元晴（1980ｂ）伊達平野の位置及び地形発達史　伊達西部地区遺跡発掘調査報告

〈調　査　要　項〉

遺　跡　名　称　伊達西部条里遺構 ―森山条里(Ⅱ)―（第6次調査）

所　　在　　地　福島県伊達郡国見町大字森山字辻東他

立　地・地　目　洪積台地（藤田面）・水田，畑地，果樹園

発掘調査主体者　福島県教育委員会（教育長 辺見栄之助）

発掘調査担当課　福島県教育庁文化課（課長 瀬戸　清彦）

発掘調査担当者　日下部善己（福島県教育庁文化課・日本考古学協会々員）

調査員　寺島　文隆（〔財〕福島県文化センター遺跡調査課・日本考古学協会々員）

協　力　機　関　国見町教育委員会・福島県福島農地事務所・〔財〕福島県文化センター・伊達西部土地改良区

発掘調査協力者　春日　一憲（国見町教育委員会社会教育係長），国見町郷土史研究会員

発掘調査期間　昭和55年10月13日 ～ 11月6日（延18日間）

整理作業担当者　日下部善己　寺島　文隆　鈴鹿八重子　菅野　順子　鈴木　文雄　長島　雄一

補助員　内藤　弘美

発掘調査及び整理作業者・協力者

吉田　光助	吉田　正雄	森林　喜助	菊池　二郎	佐藤　徳治	近野　仁	木村　平吉
近野　昇治	佐藤　トキ	小林美智子	佐藤クニイ	鈴木　キイ	吉田　フサ	遠藤　サキ
谷口千代子	佐久間モト	佐藤セキノ	斎藤　正	小林　成夫	大津　森治	鈴木文太郎
長　栄　寺	玉手　克之	菊池　利雄	叶　敦子	永山きくよ	紺野　光枝	鴨原　由恵
久能　令子	有我志津子	橋本　純子	佐藤　恭子	菅野　靖子	市川佐知子	森山　宗子
明石　米子	大橋　圭子	高橋　孝子	紺野　朋子	志賀　憲一	長野　ミイ	八城　敏子
渡辺　泰子	小原カツヨ	小原　幸子	永倉　静子	永倉美恵子	平野　ハル	近藤　芳子

（順不同）

〈事　　務　　局〉

福島県教育庁文化課　遺跡班及び文化財保護係

文化課長　瀬戸　清彦　　主　幹　皆川　郁夫　　課長補佐　佐藤　昭吾

遺　跡　班

専門文化財主査	日高　　努
文化財主査	佐藤　博重
文化財主査	木本　元治
文化財主事	日下部善己
事務補助員	今野　郁子
嘱　　託	鈴鹿八重子
嘱　　託	高橋　典子
嘱　　託	菅野　順子（2月28日退職）
嘱　　託	鈴木　文雄
嘱　　託	長島　雄一

文化財保護係

主任主査兼文化財保護係長	菊田謙一郎
専門文化財主査	竹川　重男
専門文化財主査	懸田　弘訓
主　　査	大河原敬治
主　　査	斎藤　勝正
事務補助員	菱沼　裕子
事務補助員	渡辺　幸枝
事務補助員	神川　孝子

福島県文化財調査報告書　目録

第1集　福島県発見の埋蔵文化財図録（20葉）　昭和27年3月
2　名勝天然記念物開成山（桜）に関する調査　昭和28年3月
3　寺西代官領における農山村の庶民生活史料　昭和29年3月
4　福島県文化財調査報告書　昭和30年3月
5　〃　昭和31年3月
6　福島県文化財調査報告書―県指定文化財―　昭和32年3月
7　天然記念物雄国沼湿原植物群落　昭和34年
8　福島県文化財調査報告書―天然記念物入水の鐘乳洞調査・福島県埋蔵文化財調査報告書―　昭和35年
9　福島県文化財調査報告書―県指定文化財―　昭和38年2月
10の1　福島県東部地区遺跡発掘調査報告書　昭和40年3月
10の2　福島県の民俗―民俗資料緊急調査報告書―　昭和40年3月
11　新産都市地区遺跡発掘調査報告書　昭和41年3月
12　勿来地方の民俗―新産業都市指定地区民俗資料調査報告書　昭和41年3月
13　新産地区遺跡発掘調査報告書　昭和42年3月
14　安積地方の民俗―新産業都市指定地区民俗資料調査報告書　1967年
15　いわき鹿島地方の民俗―新産業都市指定地区民俗資料調査報告書―　1968年3月
16　西会津地方の民俗―振興山村指定地区民俗資料調査報告書―　1969年
17　東北縦貫自動車道遺跡予備調査概報　昭和44年
18　西郷地方の民俗　1970年
19　福島県指定文化財調査報告書　昭和45年3月
20　東北縦貫自動車道遺跡予備調査概報　昭和45年3月
21　福島県の民家（Ⅰ，県北・会津）　昭和45年3月
22の1　東北縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査―観音山横穴概報―　昭和45年3月
22の2　東北縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査―棟沢古墳・湖塔山遺跡概報―　昭和45年3月
22の3　東北縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査―梅田横穴群概報―　昭和45年3月
22の4　東北縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査―大池古墳・大山堂跡概報―　昭和45年3月
22の5　東北縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査―七斗蒔遺跡・円持遺跡概報―　昭和45年3月
22の6　東北縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査―一斗内古墳群・里ノ内遺跡概報―　昭和45年3月
22の7　東北縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査―牛袋・笠田遺跡概報―　昭和45年3月
22の8　東北縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査―明石田遺跡・背坂遺跡概報―　昭和45年3月
第23集　母畑地区開拓事業地区発掘予備調査概報　1970年3月
24　東北縦貫自動車道関連公共事業地内発掘予備調査概報　1970年
25　福島県の寺院跡・城館跡―文化財基礎調査報告書―　1971年3月
26　福島県の民家（Ⅱ相双）　1971年
27　尾瀬の保護と復元Ⅱ　1971年
28　大内宿　1971年
29　農業振興地域遺跡地名表　1971年3月
30　東北縦貫自動車道関連公共事業地内発掘予備調査概報　1971年
31　東北縦貫自動車道埋蔵文化財調査概報2　昭和46年3月
32　福島県の石造文化財―文化財基礎調査報告書―　1972年3月
33　東北新幹線遺跡分布調査報告書　1972年3月
34　尾瀬の保護と復元Ⅲ　1972年3月
35　福島県遺跡地名表　1972年3月
36　東北縦貫自動車道埋蔵文化財調査概報3　1972年3月
37　福島県の民家（Ⅲいわき）　1972年3月
38　福島県の金工品―文化財基礎調査報告書―　1973年3月
39　関和久遺跡Ⅰ―史跡指定調査概報―　1973年3月
40　福島県の民家（Ⅲ　東白・西白）　1973年3月
41　尾瀬の保護と復元Ⅳ　1974年3月
42　尾瀬の保護と復元Ⅱ　1974年3月
43　福島県の建造物　1974年3月
44　関和久遺跡Ⅱ―史跡指定調査報告書―　1974年3月
45　福島県民俗分布図―民俗資料緊急調査報告書―　1974年3月
46　東北新幹線関係遺跡発掘調査略報Ⅰ　1974年3月
47　東北自動車道遺跡調査報告　1975年3月
48　東北新幹線関係遺跡発掘調査略報Ⅱ　1975年3月
49　関和久遺跡Ⅲ―史跡指定調査概報―　1975年3月
50　尾瀬の保護と復元Ⅵ　1975年3月
51　尾瀬の湿原植生の復元研究　1975年3月　1975年3月
52　福島県の彫刻―文化財基礎調査報告書―　1975年3月
53　東北新幹線関係遺跡発掘調査略報Ⅲ　1976年3月
54　関和久遺跡Ⅲ―史跡指定調査概報―　1976年3月
55　福島県の絵面・書跡―文化財基礎調査報告書―　1976年3月
56　福島県の絵馬―文化財基礎調査報告書7―　1977年3月
57　関和久遺跡Ⅴ―史跡指定調査概報―　1977年3月
58　東北新幹線関係遺跡発掘調査概報Ⅳ　1977年3月
59　伊達西部条里遺構発掘調査概報Ⅰ　1977年3月
60　石川町上森屋段遺跡発掘調査概報　1977年3月
61　国営総合農地開発事業母畑地区遺跡試掘調査概報Ⅰ　1977年3月

第62集　福島県指定文化財調査報告書　1978年３月
63　東北新幹線関連遺跡発掘調査略報Ⅴ　1978年３月
64　伊達西部条里遺構発掘調査概報Ⅱ　1978年３月
65　関和久遺跡Ⅵ―史跡指定調査概報―　1978年３月
66　母畑地区遺跡分布調査報告Ⅱ　昭和53年３月
67　母畑地区遺跡発掘調査報告Ⅱ　昭和53年３月
68　塩川町上ノ台遺跡発掘調査概報　昭和53年12月
69　東北新幹線関連遺跡発掘調査略報Ⅵ　昭和54年２月
70　伊達西部条里遺構発掘調査概報Ⅲ　昭和54年３月
71　関和久遺跡Ⅶ―史跡指定調査概報―　昭和54年３月
72　福島県の古民家　昭和54年３月
73　母畑地区遺跡分布調査報告Ⅲ　昭和54年３月
74　母畑地区遺跡発掘調査報告Ⅲ　昭和54年３月
75　特別天然記念物カモシカ　昭和54年３月
第76集　祭礼調査　昭和55年３月
77　古文書調査（所在確認）　昭和55年３月
78　民俗文化財分布調査　昭和55年３月
79　関和久遺跡Ⅷ―史跡指定調査概報―　昭和55年３月
80　東北新幹線関連遺跡発掘調査報告Ⅰ　昭和55年３月
81　〃　Ⅱ　昭和55年３月
82　伊達西部地区遺跡発掘調査報告　昭和55年３月
83　母畑地区遺跡分布調査報告Ⅳ　昭和55年３月
84　母畑地区遺跡発掘調査報告Ⅳ　昭和55年３月
85　母畑地区遺跡発掘調査報告Ⅴ　昭和55年３月
86　矢吹地区遺跡分布調査報告Ⅰ　昭和55年３月
87　田島町寺前遺跡発掘調査概報　昭和55年３月

（昭和5年度まで）

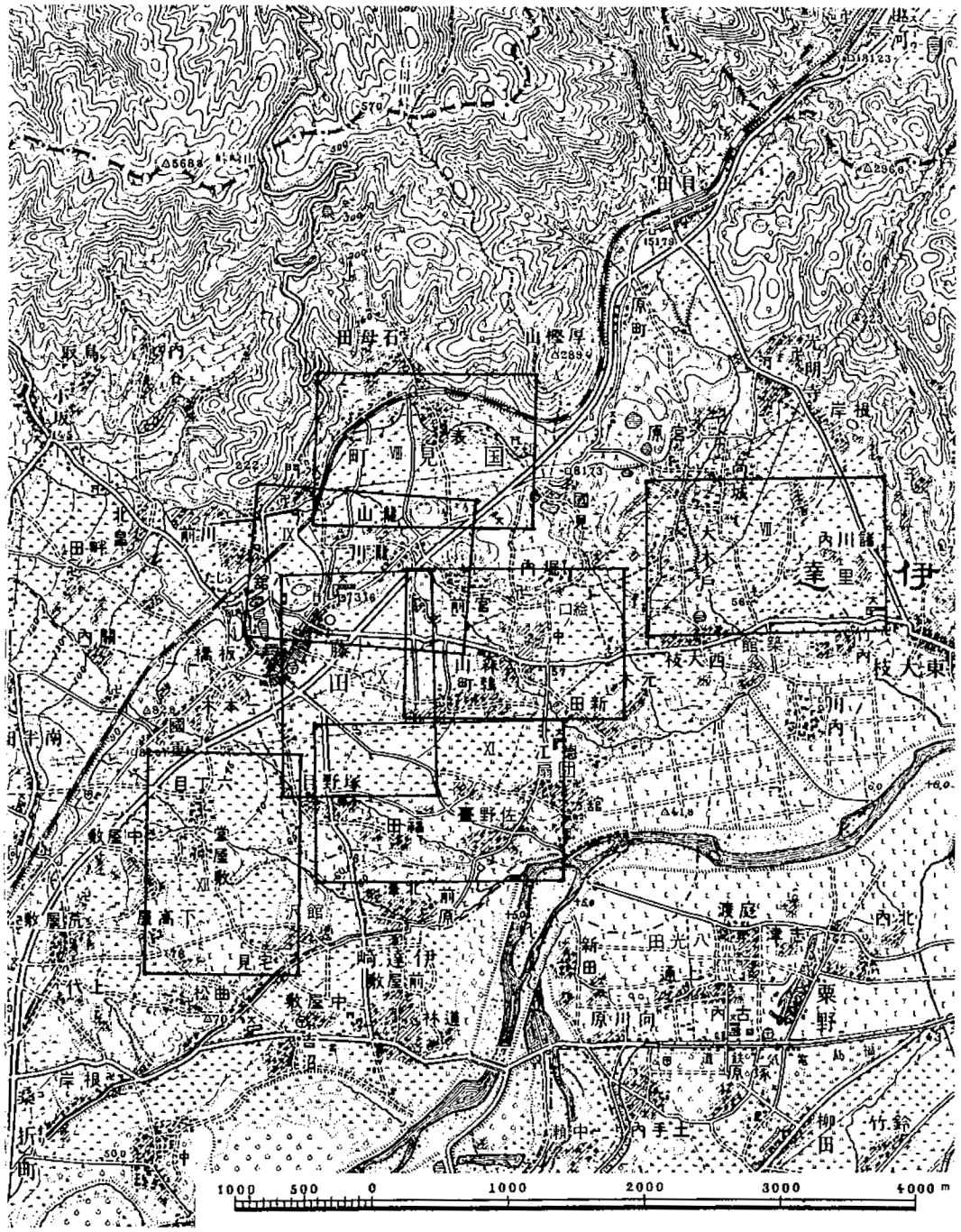
福島県文化財関係資料刊行目録

（福島県文化財調査報告書をのぞく）

1　史跡と名勝　昭和26年5月
2　福島県の民俗芸能―第1回福島県民俗芸能大会出演記録―　昭和26年
3　福島県の民俗芸能―第2回福島県民俗芸能大会出演記録―　昭和27年
4　福島県の民俗芸能―第3回福島県民俗芸能大会出演記録―　昭和28年
5　福島県の民俗芸能―第4回福島県民俗芸能大会出演記録―　昭和29年
6　福島県の民俗芸能―第5回福島県民俗芸能大会出演記録―　昭和30年
7　福島県の民俗芸能―第6回福島県民俗芸能大会出演記録―　昭和31年
8　福島県の民俗芸能―第7回福島県民俗芸能大会出演記録―　昭和32年
9　福島県の民俗芸能―第8回福島県民俗芸能大会出演記録―　昭和33年
10　福島県の民俗芸能―第9回福島県民俗芸能大会出演記録―　昭和34年
11　福島県の文化財目録　昭和34年
12　福島県の民俗芸能―第10回福島県民俗芸能大会出演記録―　昭和35年
13　福島県遺跡地名表Ⅰ　昭和35年
14　福島県文化財地図　昭和35年
15　福島県の民俗芸能―第11回福島県民俗芸能大会出演記録―　昭和36年
16　福島県遺跡地名表　昭和36年
17　会津文化史展（会津の文化財スライド）　昭和36年
18　福島県の民俗芸能―第12回福島県民俗芸能大会出演記録―　昭和37年
19　図録「福島県の文化財」第一集　昭和37年3月
20　福島県の民俗芸能―第13回福島県民俗芸能大会出演記録―　昭和38年
(21　福島県東部地区遺跡発掘調査報告書　昭和38年)
22　福島県の民俗芸能―第14回福島県民俗芸能大会出演記録―　昭和39年
23　図録「福島県の文化財」第2集　昭和39年3月
24　福島県文化財事務提要　昭和39年
25　福島県の民俗芸能―第15回福島県民俗芸能大会出演記録―　昭和40年
26　福島県の民俗芸能―第16回福島県民俗芸能大会出演記録―　昭和41年
27　福島県文化財目録　昭和41年
28　福島県の民俗芸能―第17回福島県民俗芸能大会出演記録―　昭和42年
29　福島県文化財目録　昭和42年
30　福島県文化財地図　昭和42年
31　福島県の民俗芸能―第18回福島県民俗芸能大会出演記録―　昭和43年
32　福島県文化財目録　昭和43年
33　福島県の民俗芸能―第19回福島県民俗芸能大会出演記録―　昭和44年
34　文化財読本　昭和44年
35　文化財読本指導の手引書　昭和44年
36　福島県の民俗芸能―第20回福島県民俗芸能大会出演記録―　昭和45年
37　福島県の民俗芸能―第21回福島県民俗芸能大会出演記録―　昭和46年
38　福島県の民俗芸能―第22回福島県民俗芸能大会出演記録―　昭和47年
39　福島県遺跡地名表1971　昭和47年3月
40　福島県の民俗芸能―第23回福島県民俗芸能大会出演記録―　昭和48年
41　福島県の民俗芸能―第24回福島県民俗芸能大会出演記録―　昭和49年
42　福島県の民俗芸能―第25回福島県民俗芸能大会出演記録―　昭和50年
43　福島県の文化史（文化財スライド3号）
44　文化財民俗芸能（文化財スライド2号）
45　土中の宝（文化財スライド1号）　（昭和50年まで）
46　発掘調査の手引き　1976年

以上の他に，史跡名勝天然記念物調査報告がある。

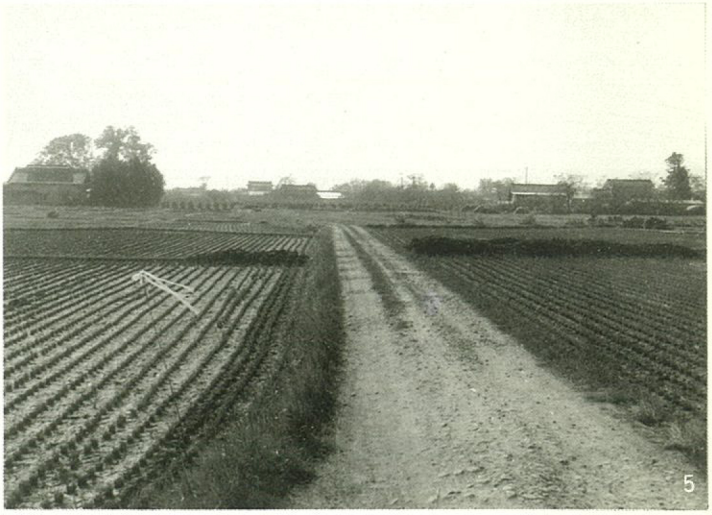
図　　版



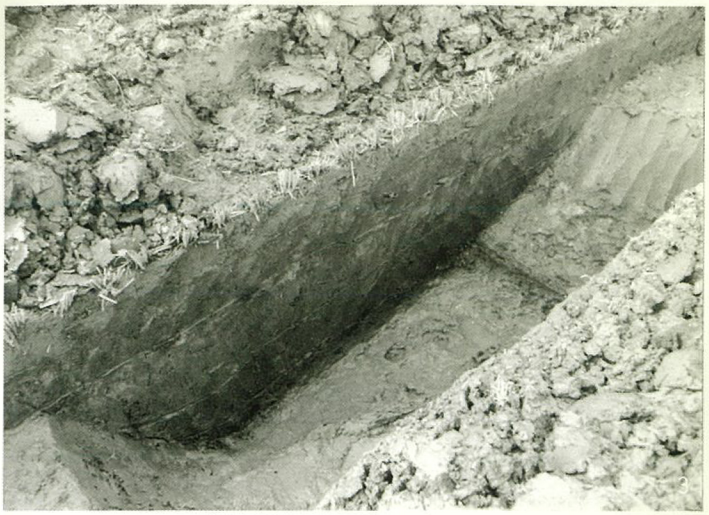
航空写真の位置　口絵及び図版Ⅶ～Ⅻ　　(1：50,000：桑折)

図版Ⅰ

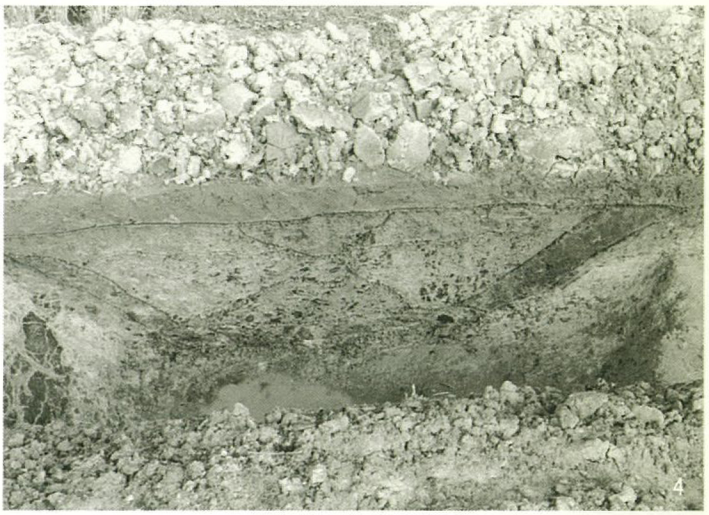
1. V～T線上の堀
2. g～i線上の堀
3. 森山条里遠望(厚樫山頂より)
4. r～m線上の道路
5. r～t線上の道路



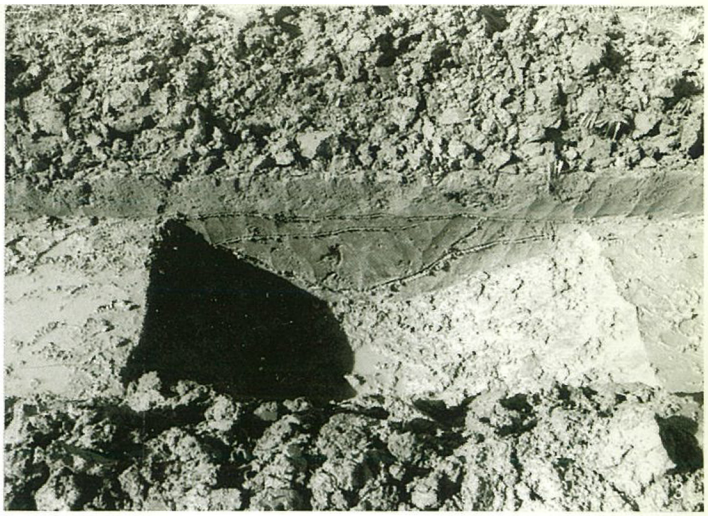
1. 第16トレンチC区と交叉する堀
2. 第24トレンチの東方の堀
3. Y～W線上の道路
4. Y～a線上の道路
5. イ～ロ線上の道路



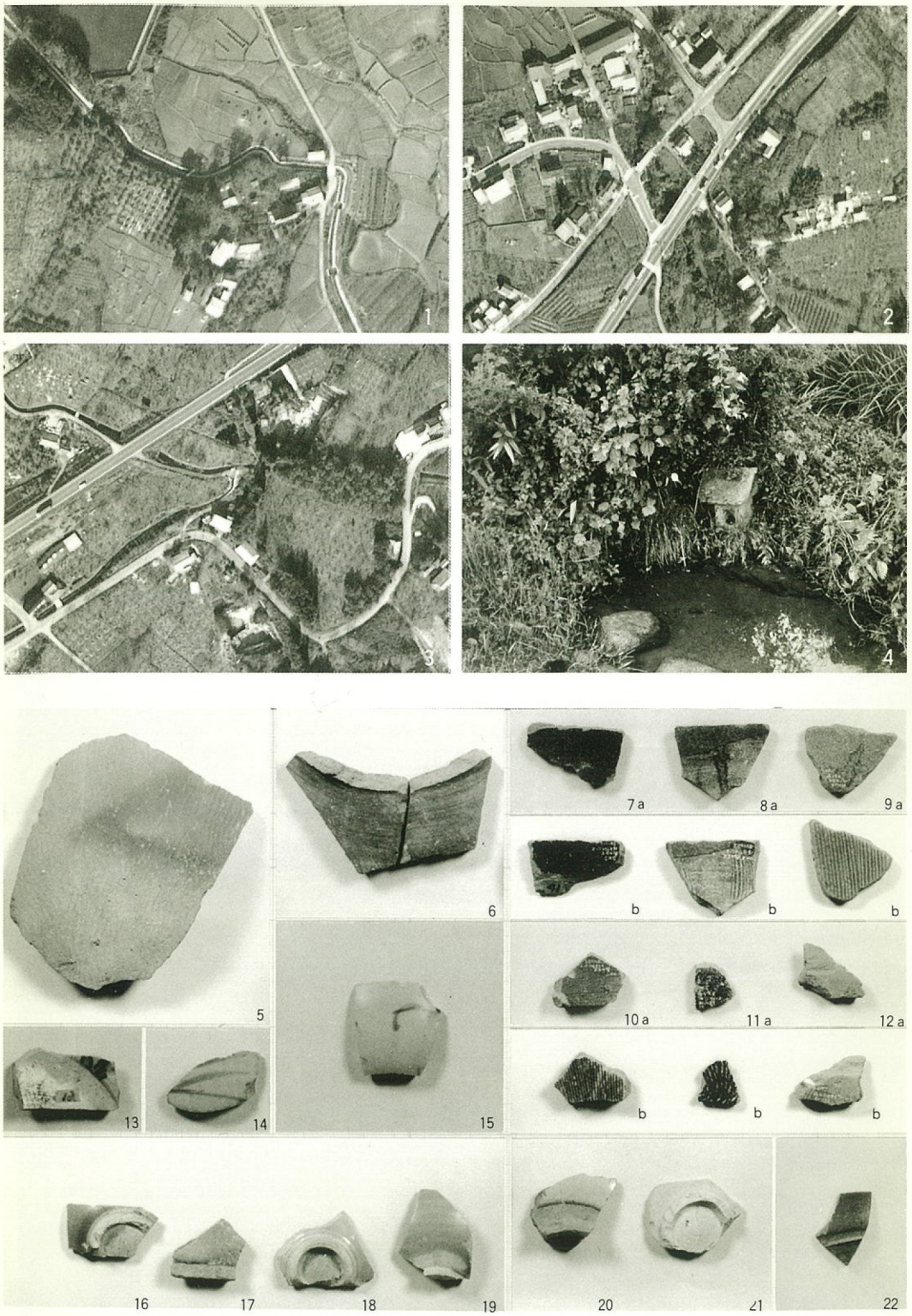
1.第12トレンチA区と交叉する堀
2.ｉ～ｊ線上の堀
3.第５トレンチＡ区の溝
4.同上、自然木出土状況
5.第８トレンチの溝



1. 第９トレンチＡ区の溝
2. 第20トレンチＡ区全景
3. 第18トレンチの溝
4. 第18トレンチの溝断面
5. 第20トレンチB区の溝断面



1. 第16トレンチB区発掘状況
2. b～Z線上の道路
3. 第25トレンチの溝
4. 第26トレンチの溝
5. 第35トレンチ発掘状況



1.本郷堰取水地点　　2.下郷堰取水地点

3.西根上堰よりの取水地点　　4.涌水湧水地点　　5～21出土遺物

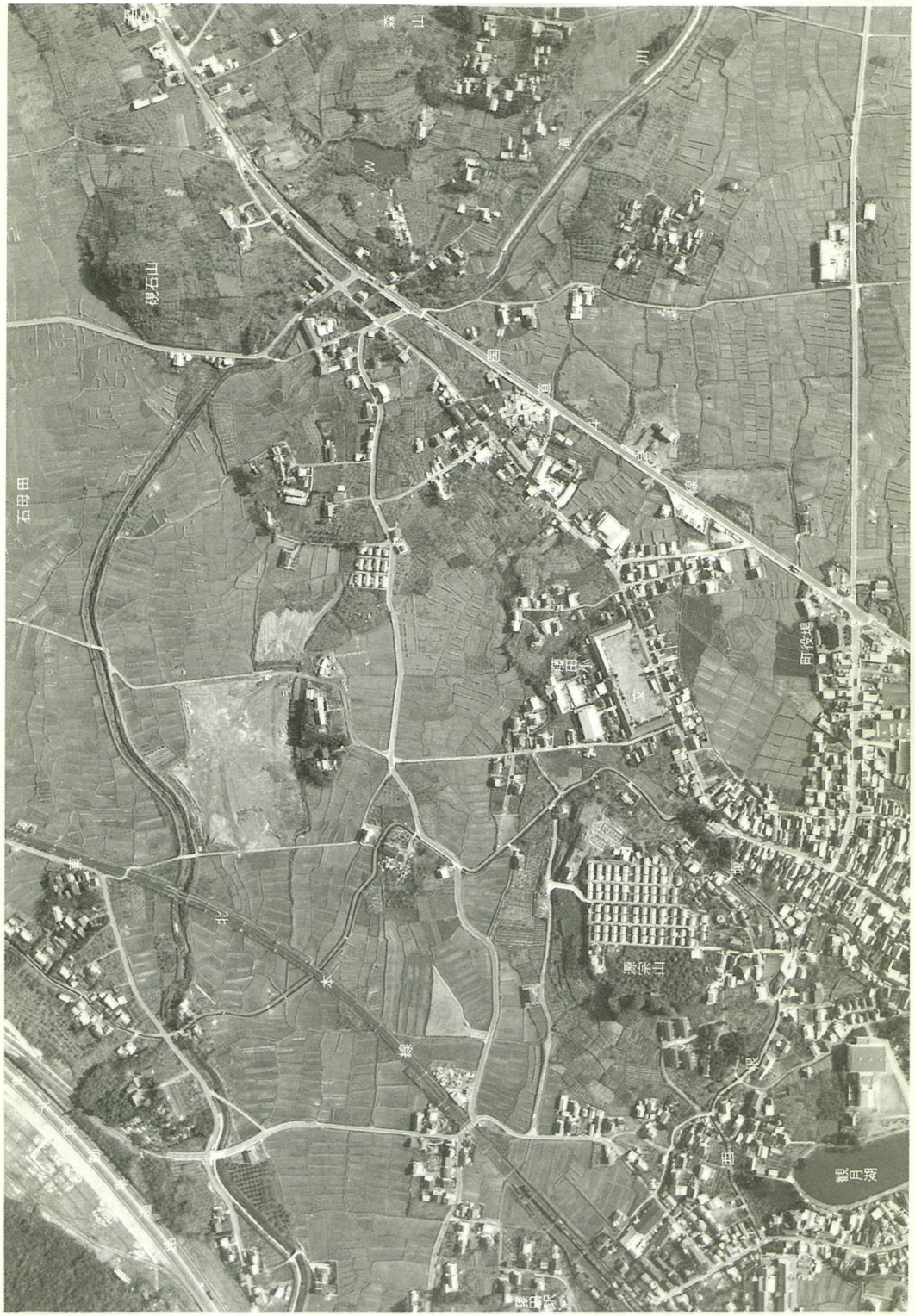
22.下入ノ内遺跡出土遺物

石母田付近の条里遺構

(1：8:000)

高城・大木戸・西大枝・東大枝付近の条里遺構

(1：8,000)



山崎・藤田付近の条里遺構

藤田・塚野目付近の条里遺構

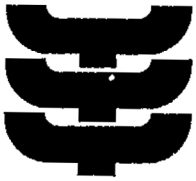
(1：8,000)

徳江・塚野目付近の条里遺構

北半田・谷地・六丁目付近の条里遺構

(1：8,000)

文化庁では，文化財愛護運動を押し進めるための旗じるしとしてのシンボルマークを定め，昭和41年５月30日の文化財保護法公布記念日に発表しました。このシンボルマークは，ひろげた両方の手のひらのパターンによって，日本建築の重要な要素である斗栱（組みもの）のイメージを表わし，これを３つ重ねることにより，文化財という民族の遺産を過去，現在，未来にわたり永遠に伝承していくという愛護精神を象徴したものです。



文化財愛護シンボルマーク

福島県文化財調査報告書第93集

伊達西部条里遺構Ⅴ—森山条里（Ⅱ区）発掘調査報告—

昭和56年３月20日　印刷
昭和56年３月25日　発行

発行　福島県教育委員会

〒９６０　福島市杉妻町２—16
ＴＥＬ　0245—21—1111（代）

編集　福島県教育庁文化課

印刷　株式会社　山川印刷所
〒９６０　福島市八木田神明98
ＴＥＬ　0245 — 45 — 2221

1981